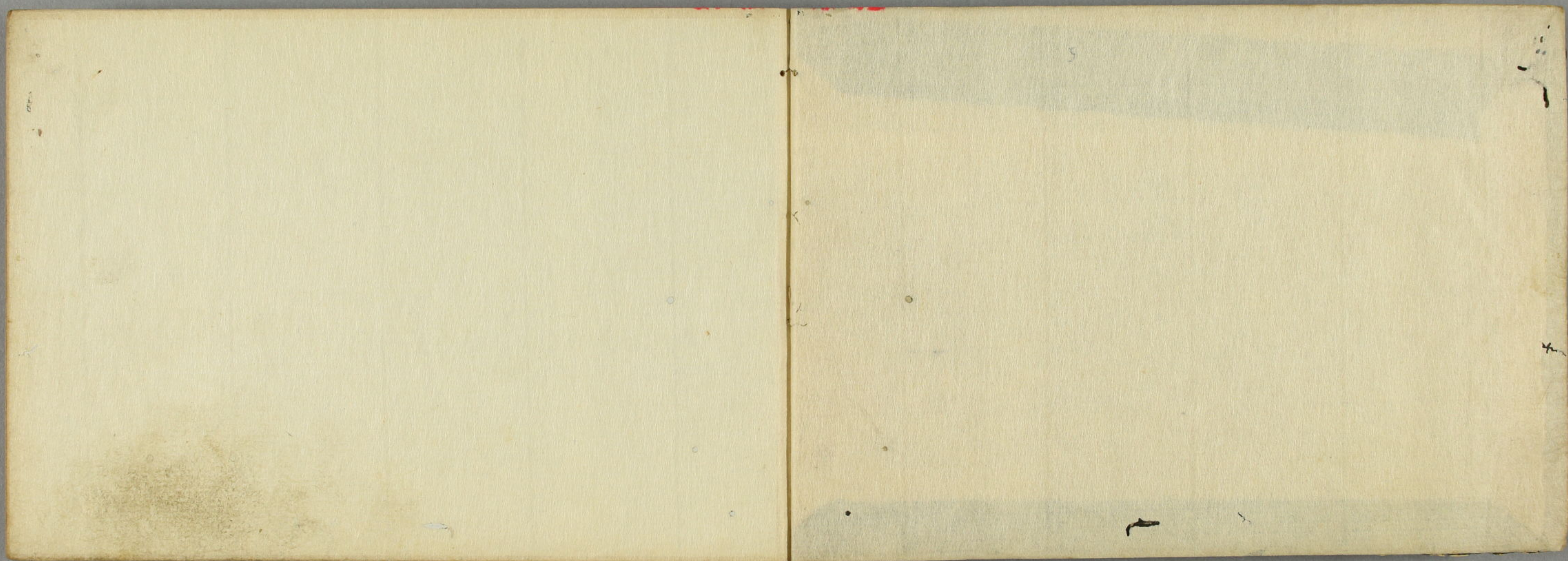


7 3  
3645  
426





門 73  
號 3645  
卷 426

本間文庫

一 五節供飾

十五 折敷硯

二 膳部寸法

十六 天兒

三 鴛鴦禽

十七 鳩杖

四 年始例記

十八 御成獻立

五 年中例式

十九 假振眉作

六 四季臺物

二十 金袋勝連

七 產所道具

二十一 移徒規式

八 表刺包

二十二 雜煮

九 鈍子包

二十三 奇老人

十 胞衣収

二十四 長鬘

十一 御子道具

二十五 酢菜

十二 山陽陰

二十六 入部行列

十三 書棚飾

二十七 鯉名所

十四 督入道行

五節位飾卷

自掛 道菜花云

きい みる

のや かし

くせ 海老

根松 白

ゆり 糸

ゆり 糸

ゆり 糸

田作

梅干

お乃子

お乃子

お乃子

お乃子

お乃子

お乃子

俗喰積ノ基氏云  
帛一重ヲ本前重  
四方下上ニ裏白  
紅葉丸ヲ左右ニ向  
其上ニ白米向高敷  
山物ニ向里ノ物ニ中  
海ノ物ニ前ニ置  
山海ノ分レニ楸ハタ  
ヲ前ニスル本俵ハ手  
一豆ニ切テ葉ヲ卷

齒鏡餅ト云

菱餅十赤ヲ  
人前ニスル

ノシ昆布帛包  
外ノ細カナルモノモ  
成中ニ包置カス

菱ハ亀甲ヲ表ニ  
十二枚ニテ四枚ヲ

組ハ亀甲形ニナル  
赤三枚上ニスル有

其  
指後二天守  
指二天守  
縁二寸

美口傳古同シ  
赤ラ具足之方白ニス  
皂甲ニ云ヒカヨシ

餅ノ和ニ内ニ竹ノ  
筒ヲサテ夫ニ松  
ヲ建ルナリ

松ノ白ニ昆布前ニ  
ノシ包テ置ヘシ  
海老ノ跡ニ退ル故ニ

松梅竹ヲ建タル  
蓬萊ノ鏡餅ナリ  
智仁勇ニ表ス

貴家ニ昔ハ門松立  
芝ニヤ家内ニ松竹梅  
正殿ヲ設ルナリ

今門ニ松竹ヲ立  
餅ニ梅ヲ立テ故  
実ニ合ナリ

敷幣ナシ高立ニ  
裏白杜モ不敷ニテ  
餅ノ上ニ置ヘシ

九餅ノ片ハ敷幣  
ニテ裏白杜ヲ敷  
ヘシ

雄ハ立ナリ鳥ニ作口ヲ  
開カシ雌ハ伏シ鳥ニ  
口ヲ塞クニ青豆ハ  
餅子ニ表

節夕ノ初トス新鏡  
餅ヲスレ上ハ色付ナリ  
昆布末廣麩巾包ト

節供ハ人情ヲ表ナリ  
年々火ヲ焚ク陽月四日  
以テ杖湯柳陰ノ美

具足餅餅

其の寸法 指後二尺寸 厚  
指寸五分 總寸三尺寸

三枝の松 みつん

こんぬ くり

穂たけ ちり

わらび ちり

かぶら ちり

書院座餅

松 梅

本たけ くり

のり こんぶ

わらび けり

一餅乃厚二寸宛下此餅ハ公御の  
取切合縁のききふニ持月此  
餅は厚一寸宛行也世に枝の  
松梅と云枝をよと添く本  
水引して縁をききり 重箱植  
子穂儀之可く好み本昆布敷  
紙包く膳へ 蓋餅赤阜  
後儀の上より好ま右の儀物と  
ありく 蓋餅

又節供餅之儀

人日 鏡餅  
えんぶ 小餅  
末廣

鳥子形ノ鏡餅六  
赤桃扇巾色子置

上巳

鏡餅  
桃花  
菱餅  
慶斗

糰草ノ本ヲ貴人ノ  
右ニスル糰十三置密ヲ  
夕三申結スルモ有  
蓮アヤメモ色ヲ置

端午

ちりめん  
鷹斗

六日ノ夜ヨリ祭レ  
飾糸ヲ願ノ糸ト云

七夕糸

五色糸  
桃丸  
五色糸  
桃丸  
五色糸  
桃丸  
五色糸  
桃丸

水中星ニ白テ  
小袖ヲ飾レハ星  
衣服ヲ借奉レ

一七夕祭ル夏七月七日此夜  
織女ノ二星ヲ祭ル  
酒掃一机乃上ノ香花焼物  
物ニ紙短冊と香衣柄小袖  
又良ノ糸と掛け楳とありと又  
二星ノ氣と神ノ氣と交と  
祈ルニ云々ノ内小針と云々

此祭ノ名ヲ乞巧  
奠ト云

乞巧  
乞切奠花ノあり

強食ニ色ニ置テ置  
籍ハ頭ヲ左ニスル著  
モ色ヲ置

中元  
蓮飯  
刺餅

鳥ノ子ノ鏡餅皮栗  
十一菊ハ黄菊ヲ包  
葉先ヲ左ニナス

中元  
鏡餅  
鷹斗  
菱餅赤白  
兼

鳥ノ子形ノ鏡餅  
三色ノシト二所ニ置

承子  
鏡餅  
菊  
末廣

玄精ハ五節供外  
ナリ物ヲ生スルハ  
又ヨリ万物ノ氣ヲ  
受テ冥月ニ生テ午  
月ニ長シ成ノ月ニ伏シ  
又ニ交ヨリ生テ受  
ト云ハ子孫繁昌  
ノ祝ナリ

一公卿紙一重菱餅二ツ上上  
菱餅赤白十上上上鷹斗包  
末廣ノ菱餅一ツ包中  
踏垂て五人ハ末廣一板式三  
献ルテ祝ス

豆ノ粉小豆ノ粉  
餅トテ粉胡ア  
粉トトテ用

同粉餅  
或云長  
或三色

一公卿紙と菱餅と上上上菱餅

天人地  
赤白黒ノ三色天地人  
ノ三才ニ比ス

改敷ニ殘東 紅葉 銀  
杏ノ葉ヲ敷ナリ

一説ニ云ク日ニツアラハ  
上ノ葉ニ菊花中ノ葉ニ  
紅葉赤ノ葉ニ銀杏  
葉ヲ用トスルノ銀杏  
未廣ク心餅ハ何色ヲ  
モニ色ニ賜ルナリ  
故有テ出任ナキ人ハ  
包テツアラハサレ  
下階ニ帝國持其  
砂子ヲ紙以下引合テ  
トラ用是ハ御座中  
ヨリノ百実トイヘリ

と改敷にして赤白黒の三葉の  
餅を敷多様委之是位例  
よき委之つゝ人ふ常之  
是ヲ敷乃ち餅といふ之紙  
小つゝ之紙をも及ばず  
紙乃ち肉ノ葉系右の餅を  
包紙乃ち包紙打形を消  
包紙を人より替り

仲呂屋日

二 膳部本具寸法卷

七五三之本膳 一尺

一尺五分 一尺  
三寸二分 一尺  
二寸七分 一尺

昏礼ノ足付ハ漆ニナシ  
是ハ質ヲ用ル礼ノ板  
足ト云

昏礼今公卿以下ノ  
舞ヲ足ナシ此片  
三方ノ高ハ准ニ一寸程  
モ昂ノスレナリ

組入ナトハ三方足ナシ  
本膳ノ鏡ノ中ハ二膳ノ  
鏡ヲウツムケテ入  
ラユフ

一尺二寸之本膳組入ノ腰  
一尺三寸之本膳組入ノ腰  
同尺

同尺付本膳 是守ニ下

此高サハ舞ニ四寸  
前ニ記ヌ也待女房  
下舞ノ片ナトニ用ヘ

七五三ハ三片ニ葉敷  
ノ名目テ膳敷ハ一人  
分テ三膳マナリ

一尺二寸之本膳三之膳太サ  
同尺

五ノ三之本膳 九寸ニ下

一尺三寸五分 一尺  
一尺三寸 一尺

一尺三寸之本膳組入ノ腰

同尺付本膳 五寸ニ下

一尺三寸 一尺  
一尺三寸 一尺

舞ニ用ル片三方ノ高  
准テ一寸モ昂ラス  
ルナリ  
五ノ三ノ片モ此寸法ヲ  
用塗木具ニ用ヘ  
昏礼ノ外諸祝儀ニ  
是ニ遠有是文ナリ

昏礼ニ極足ニ是ヲ  
俗ニ薄盤ト云

一曰二三之膳太サ本膳組入子券

式三献膳

八寸五分  
八寸三分

三方ハ賞祝ノ御方ニ  
相伴人ハ足打ヲ用ユ  
昏礼ニ據ニ三方御足付  
ナリ高ク一尺モ早  
スレナリ

一尺二寸  
一尺二寸五分  
一尺一寸五分  
一尺一寸

本膳ハ寸法如前ト  
クミ入子ノ一ニ

一同二三之膳太サ本膳寸法如前

一曰足付本膳

五寸

年壯五節ノ諸祝儀  
式三献又雜煮三献也  
此寸法ヲ用スル也

一尺二寸  
一尺二寸五分  
一尺一寸五分  
一尺一寸

組入子ノ一ニ

一曰二三之膳太サ本膳寸法如前

亀甲 二寸五分

三寸五分  
二寸五分  
二寸五分

亀甲トハ六角ニ由ル  
ニニニニニニニニニニ  
ト云閉目ノ方ハ足一ツ  
ヲ付レニ雜煮ノ御方  
ヲ盛ナリ六寸ハ高ク  
ツケル

小角

三寸五分  
三寸五分  
二寸五分

引渡ノ厨中昆布  
栗ヲ付七五三三三三  
ニヤキ物蒲団子小箱  
船盛羽盛ナトラ盛  
ナリ

銘ノ角ハ五下葎ノ用  
ナリ足ナリ

吹散

三寸五分  
三寸五分  
二寸五分

福月盛形之下地

二寸五分  
二寸五分  
二寸五分

海扇桶

二寸五分  
二寸五分  
二寸五分

貝之輪

三寸八分  
三寸八分  
二寸五分

土居五斗土器

四寸八分  
四寸八分  
五寸八分  
五寸八分

土器ノ類ハ云云式三献  
内躬賜前ノ五斗盛  
種者モ目大飯ニ焼  
ニ不盛五斗心一人ニ  
又ニツナリ

間トハ三寸ト五寸ト  
間トハ三寸ト四寸ト  
間トハ三寸ト三寸ト  
外計ヲ盛ナリ

一曰間之土器之時者指渡寸  
八分高サ一寸八分



七五三ノ向葉ノ盛ニ  
鏡ノ吸物ノ向葉ニモ

一曰二斗子窓之厨者指後三寸六分三斗一寸八分

五三三五三ノ向葉ヲ  
モリ雜煮ノ向葉モ  
セリ片ハ大重ヲ用

一曰大重子窓之厨者指後三寸二分高サ一寸八分

色直ノ餅ト土器盛  
片向葉ニ用五三三ノ  
切物ノ向葉ニモ用

一曰小重子窓之時者指後三寸九分或三寸ニモ高サ一寸八分

羊羹ノ長サ三寸二分  
巾一寸五分厚十三  
寸程ニテテ載ルニ  
縁ナシ是ヲフナ高  
中ニ置ナリ

表之臺 三寸二分 一寸五分

此内ノ菓子十二種モ  
九種モ盛ニ外ノ菓子持  
付明氏糸目凡三三寸定  
付ニ據

縁高 三寸 二寸

松合凡盛氏云七五三  
五三ノ向葉ヲ高盛  
スルナリ二重三重ツキ  
盛酒ヲ後合ヲ後ク也

合 七五三 二寸五分 二寸四分 二寸二分

七五三ノ本勝子菓重  
上下ノサレ渡ニ膳ノ菓  
高サ上下ノサレ渡ナリ

二重子掛之臺 九寸七分 一寸八分

五三モ日本ニノ菓ノ  
高サ指後内矩ヲ見セ  
タレ寸法ナリ

同下之臺 一寸四分 一寸五分

是ハ上ノ基ニ  
縁ノ様子皆礼  
床飾ニ出

置鳥置鯉之臺 一寸五分

飯櫃秋跡細ナリ  
是ニモ雲足ノ下臺  
ヲシタルカヨシ

御食之膳 二寸 一寸八分

是ハ床ノ中ニ供ル  
テテ膳ノ下ニ有

似 三寸 六寸又一寸七分

右不殊金銀ノ仕立  
云ハ色直ニ前ハ銀ニ  
三ツキ色直ニ後ハ金ニ  
三ツクナリ金銀ノ仕立  
セサレ片ハ白木ナリ

一尺一寸四分 一寸五分

是ハ上ノ基ニ  
縁ノ様子皆礼  
床飾ニ出

一尺一寸四分 一寸五分

是ハ上ノ基ニ  
縁ノ様子皆礼  
床飾ニ出

一尺一寸四分 一寸五分

是ハ上ノ基ニ  
縁ノ様子皆礼  
床飾ニ出

一尺一寸四分 一寸五分

大呂土月

宮水七

天呂上院

二十日

三 鴛鴦食表

鴛鴦ノ夜婦人ノ枕ノ下ニ  
鴛鴦ノ覆羽ヲ簪ニ包  
テ敷ク有是ヲ死鳥鴛  
食ニ云雌雄離ススニ  
海別美ヲ守鳥ノ理ヲ  
祝ニ奇ニシクナリ  
鴛鴦雌ニ鴛雄ニ

箱子ノ蝶此ニ折蝶  
ノ中ニ雌ノ羽ヲ入雄蝶  
中ニ雄ノ羽ヲ入ルニ  
ニテハ蝶ノ不見雌雄  
ノ鳥ト見ヘシ

西隣ノ所ハ頭ヲ水引  
ノ端ヲ老ノ根ヲ是  
ニ鴛ノ頂ノ毛ニ表ス  
羽ノ方モ水引ヲ老ノ  
浪ヲセヨ尾ノ方ニ分ル  
雄ノ生ニ色ニ文彩  
アルニ表ス

下ハ雌上ニ雄ヲ重ニ  
雌ノ羽ヲ上ニ巻雄ハ  
下ニ巻雌ノ口ヲ少シ  
出ヌヤウニ重ルカヨシ  
惣銀ノ水引ヲ用

鴛鴦ヲ羽ヲ包入  
古傳ナリ後代尚祝ヲ  
加エテ羽ヲ包帛ノ内  
下ノ品ニヲ入ルナリ

米ハ八十八ノ字畫ニ  
精ノ質並夫婦長命壽  
南天ハ怪ヲ辨フニ七  
葉ハ阴阳筆シリ東南  
陽方ナリ樹ハ阴阳ノ  
木ニニ用ニ葉ハ天地人  
山椒ハ花実共余木ニ勝  
又海苔ヲ祝ニ五粒五  
行 細石ハ西落ノ小石  
千代ニヤ千代ノ母ノ祝  
子數義帛モ御事祝ニ

東方ノ水ヲ土器ニ入  
明星水ヲ用ルモモ

枕秋ハ種子ノ一ニ  
東流水ノ東方ノ水  
磐井ノ水ハ瀧出レ水ヲ  
石ニ置テ井ニシタル所  
ノ水ナリ  
哥一首ヲ一枚ニ返テ  
書消ニル

鴛鴦ノ被ト云ル各目ハ  
飛鳥ハ他ノ鳥ト替リ夜  
宿ニ羽ヲ重テ子ルニ  
霜モラ又鴛鴦ノ被尼  
片身ニテ上毛ノ霜ヲ神  
友成ノ鴛鴦ニ讀  
此故ニ契リ深キナリ  
鴛鴦ノ食ト云

夫鴛鴦ハ也致源ノ多ク  
悠子孫鴛鴦昌乃鳥ノ好  
取テ古人鴛鴦の食ニ男  
取妻乃夜月ノ心  
引合ニ年を以テ是レ  
此形ヲ調ノ願名と水引  
ナリ一箱トナリ一箱  
一々其先ヲ東方ニ  
垂ルハ形ノ動也

十指  
又乃蝶  
宮珠結  
東方結  
法法結  
蝶結

結方ハ何モ用ルナリ

一采分八粒 南天 七葉 葡萄の系

桂葉 石目 山椒 五粒 細石 一ツ  
右紙ノ包鴛鴦の片ノ今粒  
付也但子極紙一也

一棧の系三粒と秘分と書ニ但此  
一棧ノ親を毛海の糖形ナリ  
と東流又ハ磐井の水と  
吉日よむ女のみハ向々糖を  
祈ルテ書信ニすナリ

上一枚  
吾輩海ぬ鴛鴦乃食の復羽も  
多代代々々々 宿の信也  
申一好小

思ふ事 岩骨ノ前ノ松ノ枝  
あ世之契ルん今ハ蘇レセヨ  
夫婦也 鴛鴦 冥冥 定命 子孫 昌  
鳴く女律令

梵字ノ九字ハ  
四時五横ナリ

口 觀音ノムを深  
凡 兼 九字文

觀音ハ婦人ヲ守テ  
仍テ護誦ス

ト一振ナリ

尾ヲ裾ノ方ニスルニ  
深ク嗜モルハ必御厨  
子ノ内ニ納メテ不取

行身ノ也上毛の言とくらん  
女履の履乃 読書ノ事  
右の秘言と各三返テ言調  
て各番と草々親を經テ  
讀誦 封を

一琴琴の念首線上可御  
物之の上更のト更の目  
御厨子の内ニ納置テ  
口傳

仲冬ハ十月  
上院ハ十日

元服ニ參  
仲冬上院

年略例記表

年暮ニ用意ニテ元朝  
年男手水ヲ奉ル  
吉名ノ品ニテ南天ハ  
不淨性ヲサケル異名  
福滿草ト云  
枝實ハ昔ハ竹ヲ編タル  
物ヲ置出テ手水石

一 所ノ事ナリ幸ハ由  
り何乃法之盟の因遠奈

内然ノ中ニテ水ヲ  
前ニ掛玉ヲ又利用トス

揚子モ三方ニ東自ラ  
敷ニ本置ニ太キカラ  
左ニシテ出ス

杜若雜ト花を愛上  
と重々ト也揚技系

寅ノ刻ヲ平旦ニテ此  
辰水ヲ掛也ト云水ニ  
功能有主人ノ生氣ノ方  
木性ニ東火性ニ南土性  
金性ニ西水性ニ北  
是ハ同氣ヲ用ナリ  
銀茶碗ヲ用ルニ毒ヲ消  
去ヨリ春ハ東ニ故ナリ  
兜文ハ樂斷ノ元ニ  
乳管ニ下ノ器ヲ包  
又三方ニ掛具ヲ飾  
杜若白ヲ敷  
石何レモ主人ヲ得方  
向申ス

一 若乃此更宣の別  
其の糸と汲瓶又  
銀糸を入テ車  
兼時兜文と唱也  
内發具也更  
乳を入テ白杜若  
掃置テ床也

主人装束有テ着座  
梅千ハ十二ハ是  
年中ノ毒ヲ消ス  
種茶ノラ大樽  
大腹トモ云

一 梅千次去思  
次ト大腹ヲ  
一番小遠園  
初秋ニ度履上  
吹ニ秋白散  
ち息代中  
夜障敷下  
一淺襪子の中  
入也

鏡餅ヲ引キ掛  
有テ三ツ土  
シモハ共三  
宿禰ハ赤キ  
酒ニタスナリ  
付ルナリ  
紅ハ念入  
白散ヲ一匙  
夜障敷下  
度障敷別  
一及入テ  
是ハ山  
用ニ四人  
鏡子ニナリ

一 度障敷下  
一 淺襪子の中  
入也

度障敷別ニ  
一及入テ  
是ハ山  
用ニ四人  
鏡子ニナリ

一 淺襪子の中  
入也

度障敷別ニ  
一及入テ  
是ハ山  
用ニ四人  
鏡子ニナリ

一 淺襪子の中  
入也

高麗ノ雜煮ニ載セシ  
五ノ三ハ三日ノ内居リ  
ス豆替トテノ喰料出シ  
五ノ七ノ信大夫以上  
昔用テ  
五ノ九ノ度又扱者  
三ノ五ノ五ヤリ取リ

古書初ハ祝有詩哥  
月合ニ三ニ合テ年  
徳神奉ル古書  
口千年トシテ書  
口長久トシテ書  
口宝菜トシテ書

本式(年男)後(時)  
向(東)地(北)三(西)兼  
七(二)地(之)五(二)地(之)  
可始得方(朋)結(節)  
(射)初(ムル)

正月廿三夜二日夫  
鹿ノ子(例)三(又)庭  
旗(十)ト(出)名(例)  
近(代)不(用)  
〇具(是)神(酒)備(一)

餅(餅)毎(味)嚼(マ)  
煮(テ)出(ス)リ  
配膳(酌)出(陣)ノ  
不(畏)ツ(ハ)イ(テ)膳  
御膳(元)出(出)シ(一)  
三(テ)跡(退)ニ(三)足(月)  
左(ノ)帰(心)酌(モ)軍  
陣(ノ)如(シ)

年始例記上節分餅  
此書ヲ年中行事ノ式  
知(ル)ル(ニ)因(縁)ハ(四)手(法)  
礼(ノ)考(ヘ)

七種粥 或法ハ土器ニ  
モルナリ十二種ハ肉ノ  
古例ナリ 芥(菜)御(形)  
御手子佛座ノ松(竹)御(形)  
御形ハ和名御(形)座ニ  
土器米臼手ノ水車(芥)  
類ハ水菜(菘)菊(菜)依  
此外ニ地下ニ芥(菜)芥(菜)ヲ用(味)  
活(ナ)リ

望月ノ初祝日ニ先  
願(安)キ(テ)出(シ)テ後(辨)ラ  
出(ス)  
亥時ハ人定トテ十四日ノ  
氣(衰)止(テ)冬(ル)子(ヨリ)  
十五日ノ氣(開)ク(テ)ヨリ  
日ノ氣(ヲ)受(ク)ニ(六)ナリ

黃帝ノ神坐ニ此(昔)ニ  
亡(魂)大(神)トシテ仍(小)豆  
粥ヲ出(ス)ル(ヲ)祭(リ)  
火災ヲ防(ク)ナリ

香椎大明神ノ神功  
皇后ノ吉支ナリ

米粟 小豆 胡  
芥子

五

新煮ニ載ルニ七ノ之次ニ古書  
初飯居勢也又つ信七ノ信早  
あり魚

白丁初乃復  
包(初)元(三)二(日)  
三(日)有(ハ)

馬宗初復 附弓初  
序被急ニ復

具足解祝乃事為ニ甲冑  
之儀之介ハ其(密)候(節)為(リ)  
徳(義)軍(里)也(と)也(と)

一解之祝吸也とか出高之祝  
なり 酌配膳等ノ儀  
宛(室)之  
孟(冬)下(漸)  
孟(冬)十(月)二(日)  
下(カ)ニ(下)十(日)

年中例式卷

一月七日ハ粥式ハ十二種借  
七種之粥ト云云ハ向(東)海(月)  
吾(我)何(も)古(積)有(リ)人(見)ル  
儀(と)也(と)粥(と)也(と)解  
乃(師)ハ(吾)我(白)飾(の)書(と)也(と)

一回中ノ旨粥ト云云ハ又向(東)  
教(子)梅(子)ノ(形)也(と)古(積)有(リ)人(見)ル  
之(儀)也(と)也(と)中(ノ)葉(或)小(豆)ノ  
粥(ト)テ(天)物(と)也(と)十(日)ノ(初)

在(向)々(再)洋(々)ノ(儀)也(と)也(と)也(と)  
其(レ)ハ(大)難(症)病(也)と(云)フ  
倭(漢)乃(例)也(と)

一回(大)日(の)具(足)解(祝)乃(例)香(椎)  
大(師)林(三)韓(と)也(と)也(と)也(と)也(と)

皆(人)今(日)と(祝)軍(神)也(と)也(と)也(と)

引ハ連リ候方  
籠ハ矢ノ盛ナリ  
箕ノ連リ一具懸ナリ

刀手切ト云一ツ忘  
餅出様二品有難  
月上置ノ菜ヨリ喰  
菜ヲ喰残スヘカラス

甲ノ大豆ハ巨ニ水ヲカケ  
置ト出タルヲ云細豆ニ  
番ノ格ヲ付ケ用ニ  
信ノ形

大根ノ香物一切ハ缺ノ  
功者ラ一切ニスト云トハ  
ヒキナリ

甲作ハ仁端有テ春ノ  
徳ニ叶大ニ五穀ヲニ又政  
田ツクリト云

其上一節 其下ニ数  
ノ士忌相ニ居

主人太前ニ著座申蓮  
菜ヲ取テ据テ後主人  
引夫ヲ上テ大前ニテ  
ハナリ

立跪終テ大引渡ヲ  
取テ神酒ヲ頂戴有  
三忌ハ引渡ハ但付  
主人丸籠子  
臣右籠子

陳馬見所也主人工  
蓬菜ノ其ヲ出シ末  
初有テ後引渡ヲ  
祝ハ書院ナリ

餅出様二品有難  
月上置ノ菜ヨリ喰  
菜ヲ喰残スヘカラス

と奉りし備りし内儀候と戴人  
は目上家乃云一具是と云て座の  
ちより一張右ノ籠中小籠  
史指と付く飾置る古儀  
一梅刺振ハゆく行法を刺  
候大小して刺かき候行法ヲ  
尚刺置候と云く其後ハ何  
水不し刺さる候と小角ニ  
盤向菓上甲乃大更番と云  
思よむと申す又難考  
くして申す上置ノ菜を盤  
某回此香物甲の大更番  
三ツ合痛小籠付申す一  
内角ハ籠なり向菓取の子乾  
の籠と申す併候て大引渡  
討飽昆布掛菓と流し流  
り候也

一梅刺振ハゆく行法を刺  
候大小して刺かき候行法ヲ  
尚刺置候と云く其後ハ何  
水不し刺さる候と小角ニ  
盤向菓上甲乃大更番と云  
思よむと申す又難考  
くして申す上置ノ菜を盤  
某回此香物甲の大更番  
三ツ合痛小籠付申す一  
内角ハ籠なり向菓取の子乾  
の籠と申す併候て大引渡  
討飽昆布掛菓と流し流  
り候也

一梅刺振ハゆく行法を刺  
候大小して刺かき候行法ヲ  
尚刺置候と云く其後ハ何  
水不し刺さる候と小角ニ  
盤向菓上甲乃大更番と云  
思よむと申す又難考  
くして申す上置ノ菜を盤  
某回此香物甲の大更番  
三ツ合痛小籠付申す一  
内角ハ籠なり向菓取の子乾  
の籠と申す併候て大引渡  
討飽昆布掛菓と流し流  
り候也

一梅刺振ハゆく行法を刺  
候大小して刺かき候行法ヲ  
尚刺置候と云く其後ハ何  
水不し刺さる候と小角ニ  
盤向菓上甲乃大更番と云  
思よむと申す又難考  
くして申す上置ノ菜を盤  
某回此香物甲の大更番  
三ツ合痛小籠付申す一  
内角ハ籠なり向菓取の子乾  
の籠と申す併候て大引渡  
討飽昆布掛菓と流し流  
り候也

一梅刺振ハゆく行法を刺  
候大小して刺かき候行法ヲ  
尚刺置候と云く其後ハ何  
水不し刺さる候と小角ニ  
盤向菓上甲乃大更番と云  
思よむと申す又難考  
くして申す上置ノ菜を盤  
某回此香物甲の大更番  
三ツ合痛小籠付申す一  
内角ハ籠なり向菓取の子乾  
の籠と申す併候て大引渡  
討飽昆布掛菓と流し流  
り候也

一梅刺振ハゆく行法を刺  
候大小して刺かき候行法ヲ  
尚刺置候と云く其後ハ何  
水不し刺さる候と小角ニ  
盤向菓上甲乃大更番と云  
思よむと申す又難考  
くして申す上置ノ菜を盤  
某回此香物甲の大更番  
三ツ合痛小籠付申す一  
内角ハ籠なり向菓取の子乾  
の籠と申す併候て大引渡  
討飽昆布掛菓と流し流  
り候也

一梅刺振ハゆく行法を刺  
候大小して刺かき候行法ヲ  
尚刺置候と云く其後ハ何  
水不し刺さる候と小角ニ  
盤向菓上甲乃大更番と云  
思よむと申す又難考  
くして申す上置ノ菜を盤  
某回此香物甲の大更番  
三ツ合痛小籠付申す一  
内角ハ籠なり向菓取の子乾  
の籠と申す併候て大引渡  
討飽昆布掛菓と流し流  
り候也

一梅刺振ハゆく行法を刺  
候大小して刺かき候行法ヲ  
尚刺置候と云く其後ハ何  
水不し刺さる候と小角ニ  
盤向菓上甲乃大更番と云  
思よむと申す又難考  
くして申す上置ノ菜を盤  
某回此香物甲の大更番  
三ツ合痛小籠付申す一  
内角ハ籠なり向菓取の子乾  
の籠と申す併候て大引渡  
討飽昆布掛菓と流し流  
り候也

一梅刺振ハゆく行法を刺  
候大小して刺かき候行法ヲ  
尚刺置候と云く其後ハ何  
水不し刺さる候と小角ニ  
盤向菓上甲乃大更番と云  
思よむと申す又難考  
くして申す上置ノ菜を盤  
某回此香物甲の大更番  
三ツ合痛小籠付申す一  
内角ハ籠なり向菓取の子乾  
の籠と申す併候て大引渡  
討飽昆布掛菓と流し流  
り候也

一梅刺振ハゆく行法を刺  
候大小して刺かき候行法ヲ  
尚刺置候と云く其後ハ何  
水不し刺さる候と小角ニ  
盤向菓上甲乃大更番と云  
思よむと申す又難考  
くして申す上置ノ菜を盤  
某回此香物甲の大更番  
三ツ合痛小籠付申す一  
内角ハ籠なり向菓取の子乾  
の籠と申す併候て大引渡  
討飽昆布掛菓と流し流  
り候也

餅出様二品有難  
月上置ノ菜ヨリ喰  
菜ヲ喰残スヘカラス

一梅刺振ハゆく行法を刺  
候大小して刺かき候行法ヲ  
尚刺置候と云く其後ハ何  
水不し刺さる候と小角ニ  
盤向菓上甲乃大更番と云  
思よむと申す又難考  
くして申す上置ノ菜を盤  
某回此香物甲の大更番  
三ツ合痛小籠付申す一  
内角ハ籠なり向菓取の子乾  
の籠と申す併候て大引渡  
討飽昆布掛菓と流し流  
り候也



押蓋モ昏礼白箱下  
水鏡ハ糸ニ銀箱ヲ  
置カヨシ又漆ナドヲ  
用ニ

測濱形モ有レトモ  
鳥ノ形ヲ吉トス  
仍テ鳥蓋ト  
号ス下縁有

古法ノ押ノ其魚  
今迄不出者ヲ盛  
蠟茶速廣書ナド  
色置ヌ酒ヲ強ル者  
ナリ

近代ハ公卿ノ物ノ  
形ヲ有ハ皆干魚  
ニテ磨キ又スルメシ  
切箱子ノ類ナリ

木地三方ナリト云  
三方ト云此片三方ニ  
白紙ヲ四角右ノ者ヲ  
置テ板ノ有ハ之地置  
ヨリ一後異トス

土月右ハ産右ナリ  
土月ハ土器ナリ  
蝶仙ヲモ置ナリ

一尺二寸ヨシ十二月  
表ス  
九寸ハ九曜ヲ表  
左刀ニ庚辰午申戌  
子ノ陽支右知巳  
未酉亥卯ノ陰支今  
白昼ニスルナリ男竹  
女竹ニ有テ用

曲物ナリ蓋通白画  
ソル亀松竹ナリ

産所ニカサリテ置キ  
難産ナレハ底ヲ換  
仍押桶ト云米一升  
ニ合入蔣ニナリ  
蔣桶ト云  
四年ハ一升ニ合十二  
寸月ノ年ハ一升ニ合  
六寸ナリ  
胡粉ヲ白繪アリ  
産湯ノ湯水ヲ合

右日  
大三尺四寸 一寸  
中三尺一寸 七寸  
小三尺一寸 六寸  
半五寸 三寸半

重陽葉 押 箱穂

玄松 押 葉

冬 根世 押 葉

右初字ニ為面ニ秘子記  
之平九古法号押之為夏  
箱ニ出畫跡出久早押葉  
之飛測濱形地紙欣等

也近代古来之公卿之物云  
号押一是時代之風俗也

冬室四暮 暮歳ノ用意ニ用  
孟夏下流 孟夏四月  
下流下十日

七 産所道具矣  
山椒 白米  
白米 孟夏下流

七 産所道具矣  
山椒 白米  
白米 孟夏下流

立産屋ノ新ニスルモ又  
帯ノ産敷ニモ立産所  
用意ニ不違ナリナリ  
モ寄穴ハ入土掛ニ

篋 桶ニ紙ニ包  
右若刀ナリ  
右式一尺二寸  
一節箱ニ

胞衣桶 其高の寸五分  
其高七寸五分  
之寸二寸五分

押桶 其高八寸  
底のぬらり  
中々す足  
右寸八寸

水桶 其高二尺八寸  
其高九寸  
縁の厚さ五分  
幅二分上下同

洗 其高二寸五分  
其高七寸  
其高五分

穿懸ト云後ヲヨリ  
肘カケト云  
三七夜迄此内使

横三尺一寸  
長三尺一寸  
幅一尺一寸  
日三寸五分  
檢

高三尺一寸  
横三尺一寸  
幅一尺一寸  
日三寸五分  
幅一尺一寸

高三尺一寸

本の高三尺一寸  
幅一尺一寸

此置ノ上ハサ一日ニ  
枕ヲ直スナリ七十  
五日ノ間ナリ

行高

高二寸二分

高サ五寸五分ハ  
枕ノ方ニ五ナリ  
係ハ白練ニ白備  
亀甲ナリト云

白後縁  
高二寸二分

松葉雀山ニ所水  
亀ト云ナリ書ニ裏ハ  
胡粉亀甲形ナリ  
六枚折係ト云

私  
高斗厚凡

八  
表刺包ニ卷

表刺袋大包六對  
昔ハ皆礼典ノ先  
ニナリ

一表刺の表羽合々六分

表刺ハ十二寸之由被或ハ是ハ  
用具ト云ナリ

表刺ハ十二寸之由被或ハ是ハ  
用具ト云ナリ

當世ハ先工挾箱ヲ  
モタセ各筆トナレリ

古ノ具ナレハ味ナ  
致安ニナリヘキナリ

奥内ニ入ル小包也墨  
目出度ハ人モナリ持  
ヲ袋ト云ニハ祝ニテ  
ノ事ナリ

サハハイ菱婚礼ノ目  
一色ノ白キヲ持セハ

表刺仕立の事

一 地の唐織書合菱或ハあつ  
板後宮はくくーその不  
めて交りぬーと人云



口ノカハリニハ羊俣ヲ  
シニニルナリ

陽包

風帝の教給券のしくま流  
ア人合ん念を切つてよと流  
ま〜〜〜此き天守の内  
よそ先とくつす魚一又  
之南一平折二もはらへ  
さく〜白黄赤黒と地之

陰包

此れかりれらるの方より  
背とぬいりかあり二ツと  
〜〜〜に回一事

かりぬハ口のぬいぬぬをせ  
そのわらも回ぬ〜縁島とも  
上下のまけとをせ魚平たぬ  
〜〜〜きりなり

一丈つといたけ一町半但〜  
そそ天守守空音之太き〜陰陽  
とも回系なり

一町のけ〜と町とあり  
一町〜とぬぬは其の

陰ノ包ハ下ヲ上ニ重  
ナリ腸底ニ陰ヲ  
上ハカサチナリ

袋前ハ結ヲ方也  
後ハ房ノ方ナリ

ま〜〜〜の眼〜  
左にけり〜の〜  
ぬ〜〜

陽包

陰包

陽ノ包ハ野ヲ上ニ重  
シ帝ノ様ハ日シ  
腸底モ陽ハ左ヲ上  
ニ重

一町のけ〜と町とあり  
一町〜とぬぬは其の  
陽此きと云之脈〜もた  
付〜ぬ陰回也

裏ハ白ト生綺ヲ三  
陽ノ袋ハ裏ニ重  
ニ裏明ハ裏ニ重  
九帯倍ハ但ノ方ニ下  
陰ハ後ノ房ノ方ニ下  
但引通〜クルキヲ糸  
三トム

裏ハ白生衣一町半〜ぬぬ  
〜わたりためて回せ  
風帝の事〜花平打〜  
〜後〜一寸ニ分〜風帝  
〜此〜刺通〜上の〜  
二寸〜むれ〜一尺守  
巴角〜も〜回〜又上の〜

横風帯ハ中刺ニ

糸ヲ留シテ前ニ記

一ツ陰ハ陽ハ三ツ  
一ツ結テハ一ツハ不結  
段ニニカレテ也

不結ハヒ子リテヲク  
ナリ

結ヲ通ニテ叶結ヲ  
陽ハ下口ノ方ニ成

切リハ畧ニ切リテヨリ  
 短く留りも有横風帯ハ包此  
 中ヲ通陽ハ風帯先結ノ度ニ  
 向ヘテ其ノ先ニ陽ハ房分  
 表ノ右ノ方ニナシ  
 風帯の修リハ行ハ二寸五分  
 行ハ二寸陽ハ二寸五分  
 但一風帯先結ニテ留  
 一ハ乃切リハ五分ハ切リ  
 五分更ニ切リ教中六但一ツ  
 陰一ツ陽ハ切リテ五分切リ  
 袖折ハ縫合此ニテ五分陰ニ  
 内ニテも又外ニテも留  
 結ニ通シテ陽ハ包ハ陽ニ  
 包ハ陽ハ包ハ陽ニ包ハ陽ニ  
 包ハ陽ニ包ハ陽ニ包ハ陽ニ  
 包ハ陽ニ包ハ陽ニ包ハ陽ニ

一包の結ニテハ八ツ井或ハ一ツ井  
 九人ニテモ九人ニテモ結ノ度ニ

五行法ニテハ  
 一ツ井或ハ一ツ井  
 一ツ井或ハ一ツ井  
 一ツ井或ハ一ツ井  
 一ツ井或ハ一ツ井  
 一ツ井或ハ一ツ井

小包ハ大包ヨリ寸  
 減ナリ  
 一ツ井ニテハ六小包  
 名アリ  
 一ツ井ニテハ中刺ノ  
 爪帯モ幅同ナリ

ツカニ三條ハ股ノニ  
 法令ルヲテ

夕子腰ニ友地ニ  
 天ルナリ

一ハ乃切リ教中六但一ツ  
 一結の巾ハ六尺幅ニテ大下口  
 法ハ大包の仕立ニ同ナリ  
 一豊極風帯ハ乃切リ結何  
 思赤黄白赤黒ニテ五分  
 法ハ深ニテ五分ノニ  
 一風帯畧多の耐ハ豊極包  
 の友地ニテモ五分ノ  
 一守鏡道ヲ入袋ハ乃

陽ニイハ上ラ上ニ重  
一ツニ陰陽也

大巾目ヨ

結ハ内ニ通ル六陰  
ワハ外ニ有故陽  
スル

一 袋の表と裏とはわが袋の表裏と  
陰の表と裏とは  
一 袋の表と裏とはわが袋の表裏と  
陰の表と裏とは

一 袋の表と裏とはわが袋の表裏と  
陰の表と裏とは

一 袋の表と裏とはわが袋の表裏と  
陰の表と裏とは

正徳五  
六月下旬

上古ハ鈿子包見  
ハ不後也文飾ナリ

昔名ノ草木ノ枝葉  
ヲ付ルヨリ渡リ前後  
芝ノ柄ノ名ナリ  
留ノ尾ハ柄ヲ包名紙  
余ナリ不切ニテ置  
一 質ナリ 是各車  
羊ヲ結タル節ノ年

渡ラヨリニニ  
ノ男 結ニスル  
陽ナリ

結ナセ是天ノ廿八宿  
表ハ半宿ヲ除クナリ  
今九ノ廿七ヲ用ヒ  
出度ノ節ノ全ノ方  
結クナリ

結クナリ折目ノ方  
結クナリ是節ニ

九  
両口ハ畧ナリ本式  
片口ナリ常ハ順ハ  
送ナリ 両口ナリ  
順ヲ塞ナリ送ニ結  
在ムスヒスルナリ

九 當家鈿子包傳卷

一 公家流源生條又將軍流源  
の鈿子ハ渡リと六寸七柄十二  
尾五寸 送り口寸 提子十二  
八寸

一 眉重黒齒目其外の依流  
ハ長柄十二送り十二七柄の  
寸送り口七寸 提子十二  
出度ハ名柄廿七送り口寸  
留尾七寸 送り口寸 提子  
松栢松ととと 送り口寸 提子  
十二送り口寸

一 飯陣ハ名柄七寸送り口寸  
七寸 送り口寸 送り口寸  
九寸 留尾一寸

一 血案の付ハ名柄寸送り口寸  
順の付 包寸 留尾七寸

提子ノ叙形帛ハ付  
シキリナリシカ  
シテ先ニ付テ叙  
形ニ付ルニ常ニ  
付リトスルカ

文ヲ用ヒイ渡ノ包  
トトミヘタリ

何モ第ニ随ニ又ハ  
吉名草々ニハ三  
ルナリ

又崇敬申神社ノ根  
木ヲ付名例ニナリ  
松栢ノ葉ハ住吉ノ根木  
栢栢ハ八幡栢ノ新羅  
明神ナリ  
其外神立ニ註眼木  
ヲ用木ノ親ナリ

山橋ハヤアコウシ也  
一十月十日奇ハ根松栢笠橋

暮目筑後古郡ヨリ  
申付古例ナリ  
近代ハ御ヨリノ沙汰  
ナリ舞ノ方ニテ役ヲ  
定ナリ

筑後竹ノ左右又ニ  
三寸ニ皮付ナリ左  
田付ヲ用生出ヨリ  
根一本付タルヲ男  
二本付タルヲ女ト  
一対ヲ從奉ルニ左  
ニ付ルニモ日ヲ  
奉ル

し〜〜付〜〜と〜〜と〜〜と切  
ち〜〜カと九付も必仏ニ九字此  
表相ニ五字栢も富尾竹海ノハ  
九ワ栢子ハツ出ル也富尾竹  
富尾付ノ赤ノ海取紙ヲ付  
吹揚も〜〜

一神亥栢佐暮月ノ時ハ長栢  
十又富尾竹海ノ十二連ノ長  
栢子十二富尾一尺あり  
一賞楯佐暮月ノ時ハ栢九尺あり  
六ワ栢子と紙〜〜付ハ包紙ノ  
ある栢ノ富尾一尺三寸長紙等  
長栢ノ〜〜あり栢子長四寸  
富尾ハ一尺長紙守ノ  
方ハあり紙也

一正月ノ根雲裏自菽〜〜根葉  
と付〜〜〜七ノ首句初ハ  
柳ノ枝栢葉此〜〜と暮月

三日ハ栢の花栢葉南雲の葉  
五月五日ハ道河あり〜〜ら  
よ〜〜栢七月七日ハ栢の葉葉  
の松栢子のをと付ハ八月替  
ハ稻穂也葉九リあり〜〜も  
菊紅葉〜〜飾十月萩〜〜ハ  
根香葉葉紅葉と付  
一十月十日奇ハ根松栢笠橋  
山橋あり〜〜飾也

十  
胞衣納之卷

凡筑後人ハ母ノもの勅ヲ  
〜〜を代〜〜てハ〜〜家ノ舊  
人果教仔受者人ノ月年を教  
實〜〜あり〜〜夜時ノ宜ハ  
〜〜〜あり〜〜たあり  
〜〜礼も〜〜付ハ〜〜葉も〜

唯々なる衆

米ハ緑・滿ル程シクシ  
座中ハ打薛邪氣ヲ  
後ナリ山掛リ門ノ  
又花葉實ナリ諸  
勝レテ孫氣昌ノ祝表  
五斗ハ胞衣ノ石ハ産  
石ト云胎ノ緒ヲ嘗  
ツツケナリ  
雙ハ折形ニ包レ外ニ副ナ  
入袋ノ括ヲ右ニ置  
ノシ思布十二本ツカラ  
七帖ニラニ申テ此ニ包折形  
ニ包テ中ニ結ラニ折  
結中ヲツクニ粟十包  
ヲク  
珠帯ハ胞衣ヲ包依ナリ  
蝶ハ酒ノ出所ヲ知ラ  
陰クナリ  
呪文ハ扱不考ル  
男ヲ分認置テ其時  
押スヘシ  
衆人愛敬ハ字ハ男  
用シ富家ノ秘符ナリ  
口の中ヲ括フハ多ク産  
塩ナシ古血ヲ吞テ  
吞レ胎毒ナリ仍取  
藻種紅ノ袋ニ包テ  
衣内折々香ル長命  
下ニナリ  
尚匠家ニ任スヘシ

公卿ハ勸米山掛と浦を愛され  
中ニ又申入の志と一筆ニ  
そ由(妻)のうき(心)入(糸)ハ  
陰陽の算(え)を(算)斗(民)市  
麻(草)一(じ)ま(紙)ニ包(右)め(ハ)  
柘(葉)た(ハ)男(女)の(蝶)と(壺)  
紙(一)年(か)く(の)こ(酒)を(産)  
の(良)後(え)の(中)入(下)ナ  
子(出)胎(の)時(代)文(を)唱(又)者(亦)も  
書(押)ナ(中)興(利益)堅(牢)地  
神(許)出(胎)折(哲)女(子)の(衣)被(子)  
一(変)好(父)愛(敬)女(母)唱(下)又(衆)  
人(愛)敬(不)背(我)育(け)ハ(字)  
魚(小)書(く)洗(飲)長(又)酒(を)  
の(之)口(乃)肉(を)と(り)て(め)て(か)く(極)  
若(連)其(首)等(命)ナ(て)續(ふ)  
け(る)會(を)産(へ)

胎ノ緒ハ長ク結アヨシ  
其ニ足ラ延テクハバ  
印ナリ左右足ノ男ニ  
産ヲニテ五ナ盤ナテ  
印ナリ  
伊ヨリ出レ産ナレ  
ハハ虫ヲ煩ワヌ生レ

一取あき(女)そ(自)の(玉)女(の)身(入)  
む(り)て(胎)の(結)と(は)く(し)男(子)  
た(の)足(草)の(右)の(足)較(一)麻(草)  
以(二)不(能)陰(湯)の(算)と(て)心  
正(一)心(一)ア(ラ)ク(は)ぶ(玉)の(結)ナリ  
あ(る)血(を)指(つ)ち(子)の(唇)ナリ  
そ(の)ま(ま)あ(め)取(ハ)さ(し)所(時)  
老(女)嬰(兒)の(長)命(糸)報(子)愛(敬)  
界(を)秘(書)唱(喝)之(を)女(け)喝(一)  
と(さ)る(る)所(ハ)後(見)レ(女)市(側)  
よ(り)そ(る)所(ハ)所(洗)糸(を)産(へ)  
赤(府)の(一)人(處)から(く)そ(何)も  
産(中)の(面)ハ(祝)め(也)と(一)  
新(産)の(足)ハ(押)搦(と)出(也)  
家(も)産(と)め(也) 押(搦)ハ(十)二  
又(ハ)七(ツ)二(ツ)も(何)も(也)

此唱レハ胎ノ緒ヲフ  
クハノ祝言ニ此申レ  
方ノ米ヲ前ニ祝言  
難産ハ押搦ノ  
婦前ニ出レ胎ヲ押ス  
ギテ見セシ是光ヒナリ  
御胞ヲ下リ葉ニ帯レ  
三座屋ノ上リ押搦ヲ  
ス(一)モ(祝)  
右例ニ申空所産ハ大  
知ラ産室ヲ取ミ産屋  
ノ上ナリ産室ノ内  
帯ルハ光ヒナリ  
コト申ト通言ハ胎氣  
作ラズナリ此胎  
以テ産室ニ押搦ヲ  
以テ胎ノ衣ヲ引テ  
光ヒナリ  
母手ハ 未申ナ  
印ハ 未申ナ  
年ハ 未申ナ  
百 未申ナ  
百 未申ナ  
百 未申ナ  
百 未申ナ  
百 未申ナ  
百 未申ナ  
百 未申ナ

ふ(湯)水(汲)ま(る)角(の)事(を)ナ  
生(家)の(水)或(ハ)せ(産)所(より)七(ツ)





小箱は何れも入り定まり  
白粉箱眉墨等

今日ノ糸ノ高停等方  
長カラカケテラハ  
箱ヨリ髪ノ過近分  
ヲ髪ヲ引ニ其髪ナ  
肩ノ上ニ引テナリ  
中ノ第一道具玉  
筈氏云此ノ掛子  
下ニ小箱ハト油桶  
入テ掛子ニ家入ノ鏡  
二面アリ以上十二色  
入ルヨリナニテ千箱  
ト云智又掛子ノ後外  
見ニルヤウシテ合  
テクナリ

大短尺箱ハ百枚入  
中ニ仕切アリ片ニ  
五十枚入ル

小短冊箱ハ仕切  
五十枚入ル

看板ト短尺ノ押  
正板ナリ

中ノ仕切板ハ大タシ  
尺筈ヲナリ

掛子ニ硯ヲ仕込  
ニ板ナリ

百枚入ニ細ハ革紐  
又ハ紅ノ緒モ付ル

蓋合口ト俗ハ口ウ  
アタノ事也

大文箱ヲ長文氏云  
三ノ壁又ク入ル  
小文箱ヲ半文箱  
尺云テ折文ヲ入ル  
カセセ蓋ニムツクリ  
カセセツタ右日引  
達水引ヲ入ナリ又  
黒桐飾ルハ白無  
水引ヲ入ル

小笠ハ香ヲ入ルハ  
源氏トテ相壺ヨリ  
花ノ葉ニ源氏ニ  
ア時繪云ル  
掛子ノ下ニ香包香  
火鉢香箸等類  
ヲ入ル

御厨子之道具

紅徳長サキ尺二寸八分房氏常の

白粉入れ七寸箱一ツ是ハまゆま

分ケル此系をこしと入る丸手二ツ

一うを淡の丸一ハ珠粒と入り

白箱

長一尺

中七寸五分

高寸五分

白粉箱 二対

横一尺

二日

二面

短尺箱

細葉箱

長一尺二寸

中八分

長一尺二寸五分

中七寸五分

高寸五分

小短尺箱

長一尺二寸

横二寸五分

高寸七分

クハノ口

何道も内ノり但内ニ分ハ中ノ仕切  
板大め今ノ蓋短尺ニ枚ありび

少して百枚入上久く入る金七

色紙箱

長七寸五分

中七寸五分

高寸五分

蓋合口又ハ口ウノ内ノり

大文箱 小文箱

長一尺二寸

中七寸五分

高寸五分

長七寸

横二寸

高寸五分

水引箱

長一尺二寸

廣二寸

高寸五分

紅ハツ打と枝

付

蓋箱ともハ掛子ハ少香包掛  
子乃内小箱六ツ有縁板ハ  
相壺帯本ハ紫紅束架花の



沈下ハ昔ノ惣名  
合口蓋ニ

色々ノ炭團有内ヲ  
隔子ニシテ入ルニ在キ  
毛櫛形モ四ノ目モ有

平替アケル吉例シ  
アケサル折柄ト云フ  
正礼ニ用ユ者ハアケル  
ヤリ

備替ハ鳥ニテラケ  
ニ両端ヲ九ツテ金箔  
置彩色繪ヲ書小引  
房トハ鳥ノ子ヲ中五分  
ニクナソレテエウタミタラ  
云ナリ白紙收引ニ帯  
元結ニ入ル由盛元結ト  
幅一分幅替ハ鳥ノ子ヲ  
敷會ナリ

大小角赤化粧道具  
ヲ入ル連蓋ノ滿字ノ  
外トハ下ノ板滿字ノ  
房有入ル物左ニ記極  
ニ備間ノ具ハ仍連蓋ノ側置

手箱押箱ヲ書ス中  
向小角赤ヲ先トスルニ  
口侍トス

耳輪耳指ヒラ  
湯具内具此ト也  
俗ニ新ヒラ

三叉圓會ハ倍具  
アリ内布合交神

拂ヲ入ル折松ヲ入ル  
本式此拂子ヲ丸箱  
云今ミタレハ言ヲ別  
用ユ  
此蓋ハ拂鐵木入白粉  
ナトヲ入レ用ナリ

大ハ髪ヲ結フ片下ニキ  
髪ノ先ヲ墨置上付又ハ  
小ハ髪ノ落拂ノ垢ナト  
入レル  
表金ノ彩色裏砂子紙  
縁ノ色ハ依テハミ  
出シテ取ナリ

祝日ノ黒齒ノ取目布  
ヲ口被ニテ後付ル  
コシ布ニテ口祝メ付ル  
櫃ノ色モコト云リ

多人何處ニテ介少カク夜

沈箱 長八寸 廣七寸

高七寸

炭團箱

長八寸

廣三寸

高七寸

高七寸

玄瓶

黒棚ノ道具

元結箱

長七寸

廣七寸

高八寸

結長二尺五寸房氏  
内小結ニ結ル者  
白紙ニ元結ヲ入ル

大角赤

長八寸

高七寸

高七寸

高八寸

長連蓋ノ滿字ノ外  
ニ又冬番けセル  
具入ル者有クは仍

塗柳大角赤同ノ掛子有角小也  
ト云ヤ朱塗ニ塗キ 莖中丸房ヲ  
以テ海ノ地前拾利花杯也  
何處も縁條のトウ 大角赤ハ年  
ありせニハ白淺黄紅ト介更中  
ニ色同カ紙金ニハ折掛子  
綿布ト入ル

拂箱

長一尺

高七寸

掛子ニ拂ヲ入ル内丸  
入ル縁紅心折糸ハ仍

折拂氏

大長一尺八寸 長七寸

高七寸 高七寸

大小ニ有ク大ハ髪ノ前小ハ梳  
のあくを入ルナリ

昆布箱

長八寸

高七寸

高七寸

高七寸

世内一様入ル  
花昆布ト云ル  
齒の付口後置



首ノ赤キ毛紅ノ冠  
表ニ冠ハ正ニキ位  
身ノ色立色ノ毛ハ  
尾長クシテ装束極  
重キ  
重カニ後ル、一ナシ  
唯雄別ヲ守レ正キ  
帶徳ニ宜キ鳥成ニ  
后車后服ニ付レ

和朝ニ鳥ト云モ賞  
義ノ詞

山梁モ山ノ棟梁ト  
云シタメ金鳥モ賞  
義ノ名ナリ

雉子ハ子ヲナシ  
ニテ産テ目出度  
鳥ナリ

應神天皇百舌野ヲ  
初テ應狩ル片三足ル  
雉ナラ捉ル

天武天皇大友皇子ニ  
玉イ三井寺ニ浴幸ル片三足ル  
雉子出テ天皇ニカレ  
三ツ打落テ以後聖運ヲ  
三ツ依テ門出又年始ニ三足ル  
雉子ヲ切ル年ノ災ヲ避ル吉  
瑞ナリ

別足ノ一雄ヲ左ノ股ヨリ切テ  
股ノ中ニ押入レハ三足ノ雉子ト  
ナル云

首連ニ毛ノ依出ス年始ニ  
切ニハ毛焼スルナリ

金ノ葉ト云ニ賞義  
ノ詞トナリ

一解と合葉ト云ニその下ハ金  
と云ともん大略ナリ

紅冠の玄位と頂牙牙小ぶるの  
彩と備尾ハ恰も襦とすを  
同ノ路有リ故ニ能國ハ遊  
天武宸動リニ應ニて衣ハ  
雌雄ノ後ハ源ノ多クあり  
ト一好ム帝車小鳳凰と飾  
ト衣車小野籠と云ルハ  
式ハ布帛不書テ后服ト云  
事名倉天理不きウツ礼  
お竹ノ小依リト燈烟の床  
ト云ハふも置名ト云ハ  
と云ハ各ツツハ唐云ハ  
梁今名ト云モ同クハ  
別足ト云事ト傳  
鳥乃名所

シキリブシ  
長キ尾引尾ト云  
アブラヲ  
ミツシナイ  
トクサワタテ  
カウシヤウホ子  
毛ナシハキ  
ミトリカラシケツメ  
土カキ  
惣名足

○ベツソク  
タロヨフミ  
ス、ボコ  
ノシロホ子  
ウホ子  
ツソキ  
ヒシウレ  
ユキマロカシ  
山カケ  
羽フシ  
山カキ  
惣名皆用

唐三門ト云龍アリ  
尾ハトシクテ鯉ナリ  
カクシ數年ヲ徑テ  
望テ遠シヨリ得テ  
竟ト変スト云リ

以城國井出ノ星ニテ  
夫婦離別ト人アリ  
其婦文ヲ吞テ川流  
入鯉是ヲ吞メ男ヲ持  
ト月離ラ得テ腹中  
文ヲ見テ和睡スト  
云リ

三百六十日ノ魚ニ表  
シテ鱗有此六三  
十六ノ鱗ハ外ノ  
鱗ト違ハ星アリト  
云リ

季春ノ比龍水ト云  
集リテ上ラントスル  
一ヲ出テ大キ鯉ト  
先ハ出テ上ラントス  
初トス  
鱗ニ登ラントスル  
頭ヲ持上ラントス  
ト云是ヨリ出タル  
初トス

小鯉ヲ文章ト云  
ハアラカ又一尺ヨリ  
内ヲ云ル  
寸ノ尺目下ヨリ  
尾ノ舟キヲ三寸ヲ  
取リテ余魚モ此  
命ナリ  
尺ノ尺目下ヨリ取  
鯉ヨリ初ル

公ヤシ一尺ヨリ  
鯉ヲ持テ別  
於主と命を以テ和朝ても  
男女の深とるなり 好小文章と  
云一古事も傳へり 好小鯉  
も和も至鯉と号し海濱  
祝少物之魚乃大小小限  
首より尾まで鱗六六  
六ニ鱗と云くは傳

一尺の插と鯉口と云事  
水中より鯉口とのりけ  
指あも是を取るとり小  
鯉口と云くは傳り也  
け云事と云くは刀の鞘も  
と云くは傳り

お頭と云事 鯉より初と  
口傳

一尺あり上と大鯉と云  
一尺守より二尺守ち人中

鯉と云事也  
一尺七寸より以下と小鯉と云  
何れも目より尾尾きと云  
の寸又たのり也

鯉之名所

- タノサウヒレ
- カマコノヒレ
- タイヤウノヒレ
- ヤマツキノヒレ
- ランサノヒレ
- キレトハノヒレ
- 水返ノ鱗ニホノヒレ
- 水ワリノ鱗浪送ッヒレ
- 佐ノ人オナレノヒレ
- サコシノヒレ
- カミナカシノヒレ
- ヒサコノヒレ
- 子モチノヒレ
- ワマノヒレ
- ミヤクシノヒレ
- スモリノヒレ
- スキサノヒレ
- ヤコシノヒレ
- ミチカシノヒレ
- ヒサコノヒレ
- ウナモト
- スミヤウ

八、陰敷ノ終ナリ  
八十一、月ノ初リ也  
九、八十一老陽敷

舞トリノヒレ  
サイタノヒレ  
名スリノヒレ  
ヨメトリノヒレ  
ウイタノヒレ  
ウキムキノヒレ  
フキワリノヒレ  
シヤノシ  
エホシキノヒレ  
スイケンノヒレ  
チニフタノヒレ  
ウトノセニサイ  
ウトノセニサイ  
スイヘン  
ライヨセ  
ホウホニウリ  
カニウリハシ  
サニノカナ

一龍の鱗は首より尾まで  
八十一あるゆへに別陽  
の取とて之を

正徳五乙未  
季穉下旬  
九月

書棚ノ御厨子黒棚  
ヲ不持方ナトニ用ナリ  
仍定寸法モ三ハス  
心書棚ノ道具ナリ

十三  
書棚飾七通表

沈案  
正徳  
書物

長盆  
軸箱  
多色  
香好  
護案  
多色  
久巻  
紙料紙

多色  
香好  
護案  
多色  
久巻  
紙料紙

奇書  
香好  
護案  
多色  
久巻  
紙料紙

眉  
護案  
香好  
護案  
多色  
久巻  
紙料紙

紙  
大案  
香好  
護案  
多色  
久巻  
紙料紙

奇書  
香好  
護案  
多色  
久巻  
紙料紙

色香  
香好  
護案  
多色  
久巻  
紙料紙

此飾ノ心得ハ御厨  
黒棚ノ道具ヲ以テ飾  
ルナリ又御厨子黒棚  
ヲ持テ飾ルハ三時  
仍テ三ツシ棚ナリ  
飾ル一有此時客  
ノモヤウヲ時宜ニ  
黒棚ノ道具ヲ取  
合セ置テモアリ又  
化粧ノ間ニ黒棚ヲ  
飾ル一モ時トメ有  
ハ此片ニ御厨子ノ  
道具ヲ交テ飾ル一  
有棚ハ一ツニ西方  
ノ道具ヲ置合ヒ時  
宜ニモアリ

此香棚ハ則此界  
心得ニテカナルベシ

客ノ様鉢之直ヨリ  
了簡ニテ御厨子  
黒クテノ道具ヲ  
取アセカサルベシ

又皆礼明ノ日ナド  
飾ニ御厨子ノ道具  
向寄書又源氏ナド  
若葉ノ巻上下ニナ  
アル巻也色紙短尺  
皆大小文箱香盤  
類上包下トモヨシ  
ハ墨タテニ付道具  
二ニ西桐ノ道具ヲ  
飾ル意ナリ也

皆礼ニ御厨子ト黒桐  
ヲ分ク一所ニ飾  
事ナリ

守の類

火元

後天袋

書物

香炉

湯瓶

奇書

沈袋

すりり

多岐ノ 帯袋 ぬしこ

弓引合 袋袋 破料巾

箱

香及

奇書

墨函袋  
提袋

記帳のり方なした師とも  
めれり

書物

盒

板入

袋袋

湯瓶

けり合

多岐袋

御深刺

書物

軸物

沈袋

奇書

短天袋

料巾

香爐

書物

秋書

及紙袋

合

大守の紙

不  
料巾

短天袋

沈袋

小外 智香合

十四

嫁入道行之儀書表

行列ノ次牙 古法ハ  
国郡ノ階々ニ婚姻  
斗也仍旅中ノ  
行列也今幕ナ  
皆礼ニ此古更  
フ受テ今限特是  
隨テ行列ナレシ

一道具の次ハ二の門ニ定ム也  
浴次中ニ大瓶ぬし之等ハ  
手定ムトシテも喜耐ニ以テ  
め能ク方相記を考ク事ナレ  
極細を能ク見テつく方別  
有実ニ多ク考也

御

幕一重ト二重ノ  
1(奥請取渡ノ  
場)モ用云其外  
全鏡面粉ヲ持  
1(奥)傳アリ

面粉ノ道具ハ眉作  
ノ長黒桐ノ道具ノ  
極ナリ

馬乗ト有ハ何モ騎  
馬ノ一

道具ト有ハ鏡

大シタ小羊下ハ  
廿中ノ皆乗掛ノ趣  
ナリ

覆面カハ竹ヲカ  
ムリ袴ヲハキ兼  
ルト云テ古書ニ見  
タリケ様ノ氏用ル  
ナリ

廿枝十枝ト有ハ廿  
十禱ノ一ナラシ

弓ハ廿支ヲナレシ  
又一張ヲ敷ラ中ハ  
入タルモ有

小上籠ヲ大上籠ハ  
重シ一二三ノ順ハ重  
キ小ト本輿ノ方ハ  
寄ナリ

三合

箱金箱 長持時成馬寄 大櫃子 女寄 日

道具

面粉ノ道具ノ

道具

道具

長持 長持 長持 長持 長持 長持 長持 長持 長持 長持

廿枝ノ方 廿支ノ方 廿支ノ方 廿支ノ方 廿支ノ方 廿支ノ方 廿支ノ方 廿支ノ方 廿支ノ方 廿支ノ方

道具

長持 長持 長持 長持 長持 長持 長持 長持 長持 長持

道具

十郎兵衛流馬宗 矢刀元馬宗 津世元馬宗

音

尺  
日  
尺  
日  
尺  
日

古漆の必力者アリ  
長刀ゴラ持ナリ  
番行列ナリ  
ハタリ

古漆貝桶ハ肩ニ  
ナリ此趣ハ甚  
タリ

此張弓ハ二張立ノ  
立ニテ中カケ全有  
矢筒ツ入ナリ  
シモ又矢巻ヲ  
是ヲ甚ナリ

漢陽弓 養目ノ  
三八ス此弓袋ナリ  
笠袋ノ一ニ全

此一節

此一節

此一節

此一節

貝桶 奏當 傳風 築木 履持 樂 日

樂 日

樂 日

人 人 人 人 人 樂 日



御守カ脚差ハ袋  
心男ノ役

漢其基ニツ二人  
ミテカツクヘシ

御輿ハ付ノ者アホラ  
持歩豆ノ者ノ馬

一ニ三ノ順本コシ  
跡ハ先ヲ重クス

御馬方衆ノ  
申房方ヲ守ル

丸湯守カハ袋

人

御長柄

人  
無罪

左邊守取指ハ袋

道具

御長柄 人 無産 改真馬 宗 文口 元馬 宗 御 付 馬

道具

小破子 宗 相 日 宗 徳 馬 宗 忠 次 馬 宗 長 柄 宗 宗

道具

道具

宗 徳 馬 宗 忠 次 馬 宗 長 柄 宗 宗

宗 徳 馬 宗 忠 次 馬 宗 長 柄 宗 宗

宗 徳 馬 宗 忠 次 馬 宗 長 柄 宗 宗

宗 徳 馬 宗 忠 次 馬 宗 長 柄 宗 宗

笠の三ノ年又重宝ノ類ニ  
リノ教ヲ入ルニ匠ノ達ナラシ  
純  
純  
純  
純  
純  
純  
純  
純  
純  
純

八角ニキリコラ一  
幕布帯と云く云々も先  
八方天地の表おもよ  
方と角おもよす  
書こめ九字十字の  
加行こむ  
魔降伏  
陰御和合の表おも  
何因茲一先平ら  
又今六夜の月  
表後西の夜ハ  
乃めや也

錢ハ四方ノ文字則  
東治南増西廣北多  
又今六夜の月  
表後西の夜ハ  
乃めや也

建中ヲ振サラウ  
取コト古多ノ此  
管絃ハ樂器ナラ持  
貞宗ハ明善寺殿  
十五  
當流式折敷  
乃其の吹る家方  
信めそそ  
貞宗法略  
乃定ハ也

折敷ハ足ナ  
今ノ達タル  
飾ヤウノ区  
十五  
當流式折敷  
乃其の吹る家方  
信めそそ  
貞宗法略  
乃定ハ也

官途ハ受領ナリ  
位記ハ天子ヨリ出  
位階ヲ記ス  
口宣ハ  
日勅後ノ趣ヲ  
官途位記  
口宣書時  
詩歌時

入部ハ國邸  
十五  
入部時

陳中世履

書ハ世形

祈念ノ僧俗ノ  
前氏ニ用ニシ

堂塔ヲ建スニ  
佛鉢ヲ安置スルハ

イフナリ  
奉射其外

艶ニヤトヨム書体  
大双紙ナニ則ノ内事

又ヤニモ出ル  
艶書ニ時

筆ヲ逆組類ニ書ス  
形三角ノ解ハ鬼方

意ナリ  
書射其外

吉山順送ニ一文  
字ノ質ノ形也

陳中世履

書ハ世形

祈念ノ僧俗ノ  
前氏ニ用ニシ

堂塔ヲ建スニ  
佛鉢ヲ安置スルハ

イフナリ  
奉射其外

艶ニヤトヨム書体  
大双紙ナニ則ノ内事

又ヤニモ出ル  
艶書ニ時

筆ヲ逆組類ニ書ス  
形三角ノ解ハ鬼方

意ナリ  
書射其外

吉山順送ニ一文  
字ノ質ノ形也

一書抄後帯ハの字形よま礼ニハ  
の字也抄紙より一文のよま礼

竜陽ノ尾ヨリ指矣  
陰ニ首ヨリ指文字  
墨ニアルリ  
天ニ昇ルル  
草木木  
ヨリスルノ順ナリ

又竜の形の墨ハ尾より指  
尾傳角取の墨ハ尻より指之  
み字の吹送あり名傳草木  
形取墨ハ巾より指之何  
歳は傳ハ

忍軸ハ墨今用赤  
他オモ可唯之

一筆も二對又ハ二對行又ハ二對  
け不並居るも多きを書紙  
の振るれた二對小る一書  
白紙を著る用函礼ハハ臣  
紳ハハハ

身捺ヲ置合ス  
式ハ有ニキナリ  
入ルメナラシ  
矢印ハ文字繪ナラシ  
州中ノ節ニ番大ナク  
片專書ナリ特場  
ニ多ク添テ書ニ

一祝丹年捺を重合する古例  
も有墨系泡立付年の捺と各  
付ハ消之又各ナリ書射年  
の捺と入墨指て去と祝ハ血付  
くそふまふふふとナリ  
一美人外入りて祝高乞乃  
付いたと人左の祝ハ中々  
云とも必折愛祝ふて奈

帝ノ祝ハ甚キナリ

紙下ニ持添ル  
祝モ日前起請ル  
古ノ時ハ望祝箱蓋  
ノ上ニ七折敷祝  
夕ナキニ別持出シ

起請願書上帝ヲ奉  
ハ賀ノ形ナリ

貴前ノ前テ中  
ツカフ日推ナラヌ  
ナリ貴人ノ上儀ヲ  
ハ子也アル故也  
ナリ

起請文ハ神名ナ  
七折敷ナリ  
二厚ナリ

正ノ一折敷古案ニツケ

折敷祝の時に料紙ハ七折敷

祝文を調へて料紙と別

あまの料紙を七折敷

祝書ニ上ノ紙ナリ

七折敷ニシテ

つゝの意ハそ人のあま

ニツ折の中より

一祝の文ハ三角の祝文

用由若ハ四角圓形

祝儀事七夕の折敷

起請文ハ時也

十六 天見之巻

世宗天見之巻

天祖ハイサキイサキ

分後一人ニシテ

葛葉草ニテスル

麻作麻ニテ人ノ形

分後水無月ノまじ  
御祝ハ大晦日ニ百  
物ノ変ナリ金ノ形  
大内神川水ニテスル  
昔ハ大内裏ニテ  
白川皆大内裡内ニ

天祖のいみじきより身は

とよも折此法を引り今

ありて用侍るあんな

折儀とて是の之麻作

形代ハ絲乃人形本

若此人形天見ナリ

このこととて是と

分後都後の事ハ

先葛葉草ニテスル

後頼朝臣ニテスル

はるなりあま

いみじきことなり

奇なりハ何

詠りたりと

世宗天見之巻

ハ二葉とて

大内神川水

折儀

大内神川水  
白川の事

申してわいひさか  
天候しきりとも  
のころのりりり

他人より前乃及かんと此後  
かり川石屋と傳へたるを  
そとひ屋の幸なりと花源氏  
仍抄落雲の巻なり

申してわいひさか  
天候しきりとも  
のころのりりり  
申してわいひさか  
天候しきりとも  
のころのりりり  
申してわいひさか  
天候しきりとも  
のころのりりり  
申してわいひさか  
天候しきりとも  
のころのりりり

天見の内をくれば法文這  
子乃とく花と傳へたるを  
練衣ときや教多うなるを  
乃波と号令此を子かたを  
あり目口と付撥とせい

天見の内をくれば法文這  
子乃とく花と傳へたるを  
練衣ときや教多うなるを  
乃波と号令此を子かたを  
あり目口と付撥とせい

セイ名トハ青キモ  
アイロウナリ

ついで新巻を過毛紙  
と書へし平れりるあり  
色其隈と志す法りて張之  
眼より行と二本立合下地り  
一本行つてその上河練をぬ  
るつてみ二本と合ころを  
その二本ありはりてしむい  
二本の合ありあり又後り  
一返り男むしむいしてそ  
むしむいしてをほぐぬ  
めのおと紙一巻きて合帯水引  
とそふははりしころそあま  
むしむいして又あよりありの  
端とむしむ合帯一返り二冊と  
願紙をけうころそあま  
結びめより一返り解きあま  
後之明の行の上と丸の横の

ついで新巻を過毛紙  
と書へし平れりるあり  
色其隈と志す法りて張之  
眼より行と二本立合下地り  
一本行つてその上河練をぬ  
るつてみ二本と合ころを  
その二本ありはりてしむい  
二本の合ありあり又後り  
一返り男むしむいしてそ  
むしむいしてをほぐぬ  
めのおと紙一巻きて合帯水引  
とそふははりしころそあま  
むしむいして又あよりありの  
端とむしむ合帯一返り二冊と  
願紙をけうころそあま  
結びめより一返り解きあま  
後之明の行の上と丸の横の

三あり  
中し

亦く乃とふ南也下は紙の赤き  
中て張上川は此紙乃下の河は  
いふは河く打込し是はこれに  
尚家めく河多物よ河は  
あつ今世よる物なれは  
とく大言行なわう  
事より此和後乃人形神  
二家の習なりと云  
一五鬼はか唐より意解と考  
とくあつて子秘へあつて  
自定更命令の法をかた  
洞めあつたのや古目と云ふ  
阿因架のまより  
一五鬼仕立の事朋乃行と綿  
又ハ後めく物と云巻目神  
一ま手せ上は流無松竹  
あつたはくを合眼の首  
く若浅う河をあつた

天のつと  
身火り  
のり  
のり

田子の  
七  
主  
行  
又  
り  
も  
さ  
き  
や  
わ  
て  
る  
あ  
つ  
た

このし  
名  
三  
五  
ル  
ノ  
留  
以  
小

神  
十  
三

いふは河く打込し是はこれに  
尚家めく河多物よ河は  
あつ今世よる物なれは  
とく大言行なわう  
事より此和後乃人形神  
二家の習なりと云  
一五鬼はか唐より意解と考  
とくあつて子秘へあつて  
自定更命令の法をかた  
洞めあつたのや古目と云ふ  
阿因架のまより  
一五鬼仕立の事朋乃行と綿  
又ハ後めく物と云巻目神  
一ま手せ上は流無松竹  
あつたはくを合眼の首  
く若浅う河をあつた

三枚草ノ後と

又後とをせ給ふもの多し  
奥子此三見と云ふを後し  
一女のあまの川ハ後云お相三目  
乃内ハ膳すすも後云と此  
三見と一云ふも後云と  
りあり云也

日輪の初幸ハ初陽  
父母社等云ふ  
五積

餅饅米細鉄ナリ  
五積  
酒膠 麻 粉 審  
ミヤサナリ

天地 初陽の例諸王  
三公ハ綿鉄術儒墨  
大夫九卿ハ右色米  
略ハ諸造ハ右六色下  
餅酥ヲ略シテ積置  
ナシ散舞ナリ用  
饒國ヲ家ニス

万幸ノ初陽ノ神  
分限ニ随ハシ  
出テ返シ内ニ出礼  
仍テ祈テ出シニハ  
上礼ヲ取テ他ニ礼

一 妻の幸四日ハ二日一日の  
女子ハ二日二日めと幸ハ父ハ  
二千日と毎ハ七中ありと云  
多ハ一ハ一ハ二積置積置云  
て云有り今ハ依積置積置  
なと云人云う祝の云と云  
事と云也  
一 妻ハ乃時神末湯の花の  
初陽ヲ多ク一 祝義祝武  
ハ祝ふより多ク云一 け附の  
かりハ果鞍いこ一 昔回をの  
云ハ立寄りハ云云云

天見園 惣長一尺二寸ハ一尺二寸

横本惣長一尺二寸  
一寸五分 五分  
七分

白の丸一尺二寸  
又ハ一尺二寸五分  
紙にて守符包

一 子見おの成かきも云と云  
事もろく一 以傳

一 か伽遠子ハめく云と云の  
嬰児の側ヲ名離  
高勢と見カカテ  
代ハ出シモ云云  
事天見同前云と見と見  
と遠子ハ略モ云と見ハ天  
見の事一 なるハ事と云  
すふと云と云

かきほこの條

白身衣ヲ稱云云  
又長一尺一寸又ハ一尺八寸  
是より以下云





とあるはほふち人すうも  
大さうくぬしとさうぬまを  
巻く一語

一竹守此事嬰児と云ふ此  
奥の先子嬰徳と片むと云ふ  
急屋敷と云ふ外他かもし  
目一事也たし一住拂あり  
可しと云ふ事云々

限の徳長弁一尺  
さう房守之房  
手は什造四尺

竹の長弁一尺二寸  
竹の長弁一尺二寸

竹の長弁一尺二寸  
竹の長弁一尺二寸

一守脇袋の袋此事地は綿又ハ  
手入らん袋の袋はるあはつた  
守袋の袋も長同くは長  
むしひふしと云ふと云ふ  
脇袋やうと云ふ結ふ付  
袋の袋と云ふは

寸法大ういかにのう一色  
ほくまうくふ物竊能松竹家  
乃故けかりと云ふ一  
くめた志のうとの金  
一守脇袋の袋此事地は綿又ハ  
手入らん袋の袋はるあはつた  
守袋の袋も長同くは長  
むしひふしと云ふと云ふ  
脇袋やうと云ふ結ふ付  
袋の袋と云ふは

又七寸 九寸  
二寸 五寸

徳二寸と云ふ  
七寸と云ふ  
床并床方  
結うと云ふ  
おきせ二寸七分  
おきせ二寸七分

徳長弁二寸人寸但先と二寸なり  
付合つた又かまりり房守之徳  
又さ房あきも云ふ

巾  
 字  
 惣長二尺一寸  
 巾

形あり

右のぬいそをこたうはきまて  
 一尺一寸

守刀を赤い布に縫い下り七徳を  
 大仁乃奥のまみりありあり  
 額帯をのりたるの縁を白より  
 集かかむらみつらせ守刀  
 ますはしや傳はつり七徳のか  
 きりながさるるに合せえん  
 此がくの奇もは時乃事之傳  
 くるり小神の事額帯は長衣  
 と袖りすたるあさよそのふん  
 と付帯と付く要思あめりす  
 へーくくくは流るる書よる  
 かあさる小神のたあさるは  
 カニ取草の徳病と  
 ソクぬいそ地  
 形を付へしは白  
 百日の目きりす  
 病の病の目きりす  
 百日の目きりす  
 歩かざるもの

冬  
 生衣ヲ都下  
 兼ハ白

練衣乃るれつらなる  
 せむさハかんぐあはる  
 長サ八寸一尺二寸は流るる  
 長サ八寸一尺二寸は流るる

袖	袖長一尺 七寸	こたへ 二尺
紐	二寸長サ二尺	たね
名	り二寸	

カニトリウシヤン  
 トヨムニハナト  
 一麻取草の縁  
 仍まひらト法め  
 切合かふしむ

積草

信玄

連袴草

地袴草

紋不露能松行と存

この葉とこらんまめ

らむと又ぬいそ

一緞をのすも川おろす



深中流後寺守但亦清  
故尤卷小振多之包銀斗  
蛇流長長寺守  
中八寺寺寺寺寺寺

十八  
古法清成秋之卷

皇山土以其外諸家  
脚成之件式之趣  
出之御食應スルヤ  
古法生付質ノ礼也

清身掛 長銀斗  
長銀斗

式三献也

初献清身液

関口ハ耳土器也著  
土器也

海月 著  
初献斗  
梅子 関口  
橘皮

二献内形

内形 生身  
内形 生身  
内形 生身

湯盛、卷賜也

三献賜羹

湯盛 生身

賜羹

饗殿 塩

捨土器ハ滴也

内捨土器

右云三献ハ世沙ノ海ニ振由我  
古法由振子提子ハ三献也  
由砂カノ退テ内形清有之振  
由砂多ク三献ハ賜羹也  
由振由砂多ク三献ハ之云  
九度之終ニ由湯清也

興之献

七五三五ノ錯

コヲケハ海氣ノ賜  
ヲ入ルヲケナリ

食揚 菓梅 塩  
内食

十八

福目ハ相又ハ細ノ色  
白キヲ炙リモミナル

和更  
蒲穂子

香和  
福目  
生糸

ヒメ成ハカシ瓢ナリ

蛸登  
蛸多

程汁

集汁ト精進ニ

蕎子  
蕎子  
蕎子

集汁

ハ盛ハ鴨ナリ

小津又羽登  
鶴汁

貝登

舟登

鰯汁

フナモリハ海老ニ

加ハ炙

鰯

鰯汁  
鰯汁

鰯

多子汁

飯

冷汁ハ島ヲ炙リ細カニメ  
メレニソフカシ煮ル

又小津

湯餅

湯漬金汁  
金和子

此湯ハカケノ湯ニ

湯湯銀

湯金魚

湯捨去思

湯吸物

サメヲフエニ塩ニシ  
タルヲ足ト云

鮒

鮒

津魚

五其ニ鳩葉ニ

湯魚葉

公御和

後清湯根

引西の道に出タル雁  
十リ御前ハ將軍ヲ  
申スナリ

古法武家ノ膳ハ本ヲ  
取り初テ拵ニテ取  
扱ニテ拵ナリ

右條行田より揚湯茶ト云  
煎煎の煎ハ之より此武家の  
水相付煎ノ煎ハ本膳分取之

清菓子

揚 蜜柑 柏カヤ

栗 饅頭 くらみ

らん昆布

羊羹 饅頭

山のいも

唐花の和ナキ花

千鳥蝶ハ亀足ナリ

市門盤丸ノ常出料理

集汁

山吹松

香お

名鳥

清食 塩

山フキ 鱈ハ山吹ノ花ヲ  
改ニキメ鮓ヲ作リモ  
リタルヲ云ナリ

鯛汁 魚ハ陰左

蛸

松焼

鷹羽

海木

鷹ノ羽ハ大カニホニ  
内ニタテニアラメテ入  
焼テ切りタルナリ

厚汁 魚ハ陽左

小刺

辛螺

松茸

鴨

和お

喜お汁

魚ノ身ヲ細  
ク切り塩ヲ  
付テ炙リ  
テ入リ  
煮ニテ  
湯ヲ入  
ラセテ  
身ヲ  
煮ルナリ

小刺ハ何支ニテモ小  
半ニシテ拵ル

室皮ハハトリナリ  
小口中ニシテ盛タル  
サシ身ナリ

鯉重皮

海

清

清菓子

捨ち巻

清菓子

提子

鯉汁

粉コ 籾コ

津飽 公卿物

五献羊羹 後世之後

破菜 羊羹生團子ナリ汁アリ善クアツモノト云 削物

湯盛盤

炊食コシ

湯物湯 橋ハシ 全全 飛飛

六献吸物

洗盤

いとこ

三層

湯物湯 兩利サスニツツアリテ

七献葱麦

破菜 汁名味

葱麦

粉

湯盛盤木地紙重

湯物湯 湯物湯 湯物湯

八献吸物

山椒山

湯物湯 湯物湯 湯物湯

湯物湯 湯物湯 湯物湯

九献羹

羹生カシ子 湯物湯 湯物湯

山椒山

湯物湯 湯物湯 湯物湯

葱麦葱 粉

洗盤洗 湯物湯

湯物湯 湯物湯

湯物湯 湯物湯

湯物湯 湯物湯

湯盛替折

活物海苔 取後  
全取分

十献吸物

海草ハ四国ノ海アル  
莫ナリイダノ如シ

海草

うけつり 吸物ナリ 朝ノ船ヲスリ 十献ニ  
カメ引タルニシテ煮ナリ

赤貝

活物 梅焼金銀露

十献腰取

梅焼ハ莫クフシヲ  
梅ノ皮ニシテハ引  
タレテ時ヲ付テ  
フ衣ニ付テ梅ノ皮  
指シ三方ニセル

砂菜 汁 タレニ也

腰取 長ノ目ニ

ホンボリナキ 朝ノ  
フクメナリ

湯盛替松葉

活物 炙献 全取露

十二献吸物

クハシハシビノ修リ  
四圍ニ又シビニタル  
ナリトシトスル  
塩或ニシテナリ  
松ノ葉

吸物 朝ノ船ヲスリ 自解形ニ切テ  
刀目ヲ入湯引ルニ松ノ葉  
カケル

豆蟹

活物 赤子ニ無豆

十三献 三奉養

汁 名味等

三奉養

三奉養ハ生團子ニ  
杉形ニモナリ 四季  
ノ遠キホエテ 降  
現在ヲ前ニモリ  
ラ右ニ第ナリニ  
レナリ

活物 久利智 梅焼 女電  
男電

十献吸物

擦磨斗

クワカラ焼ハ朝ノヒラ  
串ニまじ付焼ニ在ル  
胃袋ニまじテサ  
ト云ニシテ

コキノ桑ノ吸物  
コナ

活物 鱈 仲夏季及ニ用 鮫ノ皮ヲ引テ  
カケル



流青 烏戒イカ

十五献 温飩

砚菜 汁 名味嗜

湯盛替 本塊食法

中夏ヲ幅廣ク切タルニ命ノ但率ウシトシノ如クも蒸粉リコセウシニカシニ融テ熱クシカシトシノ度ニ吸カシルハナリ

流物 心ハ

十六献 吸物

ソキ物ハ干菜ヲ大クケテワリテ酒トカケル

五郎丸 加ちり吸物

流物 菜螺

十七献 吸物

ノリカラミトハクウシノ中ハアノ海苔ヲ入陽引サテノ花ダレヲカケル

のり搦 新吸物ナリ 塩漬

流物

葵酒

厚 山葵

十八献 吸物

雲齋

鹽齋 吸物ニ魚鳥ヲ所取塩ヲカケル是ヲ和骨ト云クニ意各山ノイモヲ和入レナリ

蛤

流物 鴨齋ツカソリ

壺焼ハ夏冬ニ冬ニ柿ノ枝ヲ切テ中ナリ炙リ盛ニサテフタラズニ湯味石ミも用ユル

茄子 又抽

十九献 吸物

あし膏

大ニホトリハ蛇ヲ細切ニテエリ輕ニ蒸ナリ

総

白鳥ナリ又物ナリ

小海老

雲イリ雲首焼鳥ヲ盛古実



すしつ細かきり  
すも志白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり

すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり

大内光に海をあきり  
かいつあきり  
かいつあきり  
かいつあきり  
かいつあきり  
かいつあきり  
かいつあきり  
かいつあきり

十二兩つきり  
大口の紙をきり  
山口の武蔵をきり  
山口の武蔵をきり  
山口の武蔵をきり  
山口の武蔵をきり  
山口の武蔵をきり  
山口の武蔵をきり

すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり

すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり

すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり

すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり

すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり  
すも白きり



五月又吉す  
後拾うる毎二人  
先んて二重りけき

巾二寸五分  
二寸五分  
巾二寸五分  
巾二寸五分

礼言の時  
今迄の時  
今迄の時

白  
白  
白  
白

巾二寸五分  
巾二寸五分  
巾二寸五分

巾二寸五分  
巾二寸五分  
巾二寸五分

巾二寸五分  
巾二寸五分  
巾二寸五分

巾二寸五分  
巾二寸五分  
巾二寸五分

巾二寸五分  
巾二寸五分  
巾二寸五分

左と胎前界  
左と大日全剛  
よ表入

左と胎前界  
左と大日全剛  
よ表入

左と胎前界  
左と大日全剛  
よ表入

左と胎前界  
左と大日全剛  
よ表入

左と胎前界  
左と大日全剛  
よ表入

左と胎前界  
左と大日全剛  
よ表入

左と胎前界  
左と大日全剛  
よ表入

左と胎前界  
左と大日全剛  
よ表入

左と胎前界  
左と大日全剛  
よ表入

左と胎前界  
左と大日全剛  
よ表入

左と胎前界  
左と大日全剛  
よ表入

此の百工は...  
私の子は...  
此の少き...  
...

此の由緒...  
八平元...  
...

百工...  
白出...  
...

此の役...  
...

一ツの...  
...

内...  
...

一...  
...

此の...  
...

此の...  
...

と道...  
...

一寸斗川がーあまりと深く  
さうわがびよる宛を耐えと  
りて是うもえん包といふ  
又後乃返ちり方不直と云  
かー旦一かやもゆかし  
弟後縁糸と考へーはむ  
布とむるんと云これ長かり  
と表す

ちんちんわらわらと云ふこと  
をあらまひま由能き

一かりういも寸式二尺二寸本  
南天柳と目ゆるうい一ま  
付白糸と云へ

一長うとー五人式ハ五人寸  
六尺のかりーと云是之髪を  
なひ合を建によう付るもの  
小じん別ちけぬー大うら  
七つ入十二のうらーは信

かひらうらうらし  
かひらうらうらし  
うらうらうらうら

うらうらうらうら  
うらうらうらうら

長かどーめはかきとちんちん  
せうらとせすち入るをセッ  
入のうらうらと洗  
ハ葉のおとく掃ふかー川  
とらう掃ふところーさ  
池とつけははる

一長髪言位の内方ハむらとせもふ  
貝丸とこに入出たうと  
まらとん辰とせもつ付は後  
とらう下つらハ五尺五寸  
痛ふとあたのまにとらう  
おらうと幸もは先ハ法  
あつと候うらちり  
なり腰巻のせ川ハうら

なり腰巻のせ川ハうら





一 平巻の幅もたうの帯を一寸  
二寸より一寸五分おろす  
三寸又三分おろすも  
あけらるる

一 小切の髪は  
とろろ六分斗小切は  
ちと短く  
白く  
あけらるる

一 眉第道具  
一 横と一毛とて  
あけらるる

一 神なり  
は白く  
あけらるる

一 髪  
は白く  
あけらるる

一 髪  
は白く  
あけらるる

一 髪  
は白く  
あけらるる

一 髪  
は白く  
あけらるる

一 髪  
は白く  
あけらるる

一 髪  
は白く  
あけらるる

一 髪  
は白く  
あけらるる

何も象方にくれぬ長短は  
すよふも世に世にふふなりとも  
具といふ眉他りありきなり  
眉他筆も多

一上假振一對 下はひりくたれらひ  
よて上もあつあはし

上下麻冬毛  
長九寸五分

かき上下二分

他長二寸八分式九分もろ

六寸 たより細き筆一對あり

一水毛一對 いもあはむとを  
付なりとまへまゆを記れいあ

六對用り対は是と大上落るといふ  
履き也

上下冬毛長一寸余

りく上下二分

他長二寸五分八分

長一寸五分下  
夏毛冬毛を  
交もた

右小細き一對あり七毛と白眉他  
と云

一小上落一對白毛と他眉と

いいて毛いとまへらりいあ  
白毛あつるまへらんりいも  
いあなり

上下白卯毛  
長二寸五分

かき一寸余

他長二寸五分もろ一寸五分

ちよかゆとふ一對あり一毛と  
大上落りりいあ筆の毛  
右不同一六毛の用り対は毛とハ  
男の毛りなり也

一毛と大川一對 海も毛をけし  
て毛と大川一毛ゆとこら毛  
眉とつりとも云

上下麻冬毛長一寸五分

長一寸五分  
かき一寸余

他長二寸五分もろ一寸五分

卯の毛ハ鬼の  
毛なり

大いぬと記一對ありて

一 紅粉筆一對

上下長毛筆二枚  
仲筆二寸五分ありて

大のぬす二一對あり

是より筆と  
紅粉筆

一 一 ぬす一對 龍子丸胸毛三ツ  
短筆と長筆二枚ありて  
のす記ふ紅粉筆房小金糸と交  
けりて是ハ如く記すべし

長弁の筆

くしと筆 仲筆等ありて

大いぬと記一對ありて

仲ハ龍子丸前後は準このす依

一 一 ぬす一對 合く六對あり

紅粉筆房丸丸筆紙ふ包

くしと筆二枚ありて

ゆきと筆あり

一 眉作筆本式十二對あり

筆房ふつて思極ふ如く

六對ありてありて

一 白筆も作ありて六對あり

髪のもとはと記す一對あり

なすと記すあり

一 筆のわたりあり

あはれ筆丸ありて

いへ白筆とありて

子筆の派ありて

そのころありて

まろくありて

一 京白粉 上とありて

しつとありて

わりのとありて

板とありて

唯つ子  
あはれ

おぼろげにわすれ

入るるしすり訪ふひえ  
よくゆふのまの思ふまにふり  
とくくはりあへ

一 さいすけりまの思ふふあへ  
あまの思ふまにふり  
先もあまの思ふまにふり

一 福雲の方

福雲の方 福雲の方

何もおかまの思ふまにふり  
とくくはりあへ

又方

合ふくま 福雲の方

一 福の思ふまにふり  
とくくはりあへ  
ちと道を通り  
とくくはりあへ  
とくくはりあへ

ぬへー さいすけりまの思ふまにふり

一 福の思ふまにふり  
とくくはりあへ

とくくはりあへ  
とくくはりあへ  
とくくはりあへ

事なり

杉扇 福雲の方

帯希

福の行

とくくはりあへ  
とくくはりあへ

一 髪結屋の思ふまにふり

とくくはりあへ  
とくくはりあへ  
とくくはりあへ

福雲の方の思ふまにふり

福雲の方の思ふまにふり

福雲の方の思ふまにふり  
福雲の方の思ふまにふり  
福雲の方の思ふまにふり

福雲の方の思ふまにふり

傘袋勝建之美

立傘ニ惣朱ニテ  
 一勝建様之事撰去吉日良辰當  
 日之吉方向可裁縫也長サハ  
 可依傘之長短白布淺黄  
 用事口傳

依健ハ真左カ  
 返縫シ布三個ヲ一町拵余  
 之方ヲ續テ二重折ニ野ニ  
 用テ外ノ一町共ニ可縫圓拵  
 拵一尺七寸五分赤ハ一尺九  
 寸内一尺二寸為縫放三所ニ

キクトチノ様子  
 一網ハ一尺余縫放ニスヘ續タ  
 ル野ハ下ヨリ兩端ヲ一尺計  
 縫如袋ニミテ拵或緒太ノ  
 草履杯ヲ可ハ為也縫放ノ  
 所ニ續續ヲ付ヘシ口傳

多ク黒草ヲ用  
 又フスヘ草ナトモ  
 用ル一非ナラン  
 御免草ハ地色紫  
 小紋形ヲ白ノ拵  
 中通ノ草自ラ  
 化粧結ハ草ノ上ヲ  
 結フナリ  
 無官トアレヒ五位  
 諸大夫ニ是フス草  
 黒草タルヘシ  
 西品ニ上御免草ヲ用  
 式ハ草モ日あり  
 色緒ハ赤タルヲ云  
 今ヒロフトニテ上ノ  
 拵タルナリ長柄ノ  
 袋ヲ用ルニ是ノ  
 拵ナリ  
 拵ナリノ所ハ草浦  
 草黒草ヲ以テ  
 依ヘシ長ニ尺七寸  
 或ハ三尺六寸拵  
 二分ニスヘシ結樣ロイ

一額額之事當蒲草或黒草  
 長サ六寸五分幅九分又ハ寸分  
 兩端ヲ劔形ニスヘシ  
 一風帶之事上當蒲草下御  
 免草タルヘシ長サ拵ニ准之  
 幅二寸二分亦寸五分何モ先  
 劔形中程ハ一寸五六分ニスヘシ  
 扱ニツヲ重閉付置其上當  
 蒲草ヲ細クシテ草拵結ヲ  
 スヘシ無官ノ草ハ黒草當草  
 可用長サ幅日前口傳

一廿中之傘袋之事地ハ色緒  
 或ハ緞子之類用也裝束等  
 如前雖焚依拵可略之条  
 々口傳

延宝四曆  
 孟冬上旬 孟冬ハ十月  
 上旬ハ二十日

ウツレ 移トヨム主人  
及席等 古屋戸  
寄定 移ノ通称

廿一 移徒祝式之卷

壬癸亥子ハ北方ニ  
屬シ水ヲ司シ  
西丁巳午ハ南方ニ屬  
火ヲ司シ六三ニ  
曆中戌十二客ノ内  
破閉ノ白ノ字訓モ不  
宜ニ不用  
水ハ火防ノ權桶一  
一 行ニ入  
火ハ古屋ヲ先ツ  
ヨリ燒束ト火ヲ消  
サヌ祝ナリ火入ニ入  
信ニ入何モ書後ノ  
内ノ所ニ置  
家主ノ行列其外  
眷屬馬等ヲカマ  
掃垢浴カナリ  
經ハ菅ニ板ノ物平  
服ヒ 婦人モシラ南  
前黄モ石用詞ノ  
ヒ、キ、志シ  
主人居間ノ床飾  
高立一色ノ銀幣  
又白幣シ  
松ノ枝ニ侍黄ノ葉ヲ  
品ヨリ掛ルヲ鳥ト云  
糸ニ銀着ヲモ置  
厨下其外祝ノ物  
吉名等ノ縁ニツテ  
用ヒナリ  
宝膳ハ宝膳表  
餅ハ取取下重手  
上三寸  
此等ノ 示飾ハ家ノ神ニ備ル

客居雄 主居雌也  
飯ニツノ曲物ヲ下  
又其堂ニ水ニ葉ヲ  
ヲ画ナリ 雀ノ好ム  
草ナリ  
又雉子ニテモ置種  
曲物日前野ヲ  
画クハシ  
瓶子一雙蝶花形  
左右ニ置カシ 又  
小書院ノ床ニモ  
カサレシ  
龜甲其堂盛置之  
三所ニ付ルモヨシ  
飯櫃ノ曲物ヨシ  
一 玉鷄其長一尺寸五分  
一 尺二寸縁一尺八分縁寸  
祝此祝式先小豆粥トカ  
終テ式ニ献スハ雞煮ニ献  
多ク 祝乃膳七又之  
之也 勿法ト云ク  
師傳ハ白粥ト云ク  
料理ハ焼物ト云ク

主人居間ニ音生  
ノ年ノシヲ出次  
粥白菜煮物数子  
高立一色ノ銀幣  
食料出ナリ  
少豆カユヲ古トス火  
神ヲ祭ルニ二日真ヲ  
用ニ  
白カユハ例ナレハ  
香シカユハ例ノ四方  
竈ノ余ト云クモ  
廿一

焼物詞ノニキヲ忌  
淨草ノ總ノク  
モノニ二月ニ葉有ク  
ルシカラス

大書院其外三幅對  
三瓶二幅對一瓶三月  
本多イ色ヲ不用香燭  
水鳥ノ形若花モ赤  
色忌水草ヨシ

朱ヤラ忌乱燒  
馬ヲ青黒月モ  
笠等ヨシ葉モ  
火色燭ニ忌ム

棟ノ間ハ形ニ忌ム  
又平指天井ヲ見モ此  
表ナリ

墓目ハ無事ニ不行  
兼テ五相ノ有  
二用ニテ

移徒ノ夜夫婦  
三ツテ枕ニスルナリ  
月夜油火ノ下モ忌ム  
水ヲ入レシ火所ノ心

雪隠工初テヤルモ  
是陰ヲルテ曰ク  
モトムルナリ

此五種性性五帝  
九職也色四時五行  
方角ニ配當シタル  
ヲ下ニ居タル

文字ニ品有リ  
雜煮ニ集煮ル  
ヨム吉名ノ種ヲ  
集テ煮ル意ナリ

又臘魚ト各古  
此山將來カ勝  
ニルハ鹽堅ニ  
下ノ五種五備  
コ(是ニ叶ナリ)

今通ニテ雜煮ト  
イリコトニ  
ニテニタルヲ云

本式ハ生雜煮也  
不煮シテ色ヲ  
ル給美ノ煮ルナリ

精進ノ仕テ下置  
上成岸右ノ色  
ヲ取申相續嚴  
要ノおソ用也

室也物もか多月二八月  
り多中是也

急物の事一馬  
生花垂香炉ニ  
左ノ馬ノ火性  
右後枝葉赤  
祝儀一老面  
勤事平懐  
延宝三  
正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南  
解  
肺金表ス色  
秋方メハ西  
故海  
胃水表ス色  
方メハ北性  
元大の又色  
印メハ食  
五帝此則  
先元目小  
法メハ食  
小室初小  
祝云  
串籠  
結扇  
結昆布  
勝栗  
結扇  
結扇

元祝言ふハ  
故也此結  
七色也  
正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

正月雜煮  
肝本表色青  
春之方大東  
心大夜入色  
方大南

生誰者ハ不喰モ  
ナリ者タリトモ  
ソト喰ベシ  
盛ヤウ下モリニ  
イモ大根ヲ用ユ  
ヘシ

振子以傳有テカ喰振  
尾ハ口傳有テ能ク秘

廿三  
壽老人卷

此書ハトセ先生ノ  
南極ハ南極セ  
此星地界クシテ  
日本ニリ北極スト  
イヘリ北極見  
テリ  
壽ヲ祝フ者不  
三ヘタリ

抑世ハ三幅對の中ニ壽也  
神トモ仙人モある又天神  
七代地神云々の神トモ  
ふり〜〜〜  
飛多しそのあ〜いす  
本〜〜〜  
武路ノ壽老人神ハ南極老  
神是トモ人壽多る事  
い〜〜〜壽老人云  
廉ハ南方ノ馬ニ屬トモ  
南極トモ云々〜  
も子秋の壽老云々  
孫樹の壽老トモい

雉子經ノ自縁  
山川陰陽ノ卷  
出タル如シ

鸞鳳の現ルハ聖  
人ノ世ト云リ乱世  
國ノ不道ナルハラシ  
ホフ依カクルト云リ

尾ノ長キヲ装束  
裾ヲ引カコトシ

皇ハ天子ノ御服  
脚車ノ飾ナリ神輿  
ナトニ風ヲ飾  
后ハキサキノ御轡  
ナリ御服脚車ノ  
カサリニ用ヒラル

かり哉よたと〜

一雉あり〜

吳胡の壽〜

いつ〜

これハ聖代〜

縁〜

尾ハ裾〜

勅〜

義ヲ〜

小〜

皇後〜



名ヲ云ノ鳥ノ下  
サスノ賞取

内ハ大聖ハ海  
登リ竜トナシ  
唐ノ龍門ト云フ  
瀧ハハケニキタキ  
ナリ

とく〜〜〜あこれ  
ふ〜〜〜あこれ  
云ハ龍ノ国縁あるふり  
祝文斎飾ニ至ると龍ノ  
龍ノ甲子ノ龍ハ内々古事  
五帝ノ唐ノ龍門ノ瀧水ハ  
事不叶之志ウレたの御色得  
〜〜龍ハ竜と成気小〜〜  
ねと〜〜〜終ふ〜〜〜  
と成事と得〜〜〜  
て式ニ献龍内身龍のワ  
いり〜〜〜之床〜〜〜  
も〜〜〜又我朝の古事  
首山城ニ芥かの里ウテ夫  
娘の中流〜〜〜時女席久を  
書〜〜〜玉川流〜〜〜  
小龍気と飲長〜〜〜の文

井出ノ玉川

山古事ニテ  
文章ト云

他ニ龍子龍雄雄ノ  
流ニ取〜〜〜置トモ  
龍ニ取〜〜〜置トモ  
取金鳥全条ノ  
目録ヲ取テ用  
二ニ雌雄ノ理ニ  
カワラス

空ウダ君ハ天ク〜〜〜  
此記林氏ノ書老人  
ノ画ヲ見テ書レタ  
ト見エタリノ此所  
ニ引用テ彌南極  
巨生ノ一ヲ明カ

川野の細小入〜〜〜  
岩原〜〜〜  
と〜〜〜中と本の〜〜  
法〜〜〜古事も有也  
〜〜〜祝文〜〜〜  
龍子と龍ハ山川の陰陽  
〜〜〜男の〜〜〜  
〜〜〜湯成〜〜〜  
〜〜〜之女の方  
〜〜〜他  
〜〜〜川龍とニツ宛金  
事者尚流〜〜〜

林大学頭信厚

彼降雲蒼 偶現人郷

南極之老イ 万壽無疆

南極ノ星ノ精俗呼之壽老人

トモ福祿壽ト云ハ繪則

老人ノ用畫ニ棄リ人同

降ル因也

長かきーの事

中へ申あし  
のれまの格  
小江あさき  
ゆくゆけて  
根すこの物  
つれす地盤  
さうりし世  
りあし  
えゆいし  
陰あし

三つふらあめよむ移りせむり  
あまらへ三申括むむり  
替りい申ハころちとか曲く  
支振とほ昔のちく曲ても  
一かからち替もそふ長  
つむのかしらと入くと  
かーとあひあてわり  
のうらむとさそそのと  
と後もとあひとかくらぬ  
後もとあひの結めのをほまハ  
ゆむくのちくちく

こびんたあ  
わいあし  
子あし  
白あし  
ひんあし  
と後あし  
ゆれあし  
もあし

長かきーれあまのさけ一寸  
あさ上とかかーまのあさ  
の申中と白れあつてゆみ  
魚ー結るー永江二ま  
白あまあまのあし

所を  
あし

めの高申へかーめあが  
よあまにあゆむちあ

白は  
元は  
ゆあ  
た

白は  
多  
さ  
も

立  
白  
あ  
早

一  
さ  
く  
ち  
た  
た

橋  
あ  
竹  
ゆ  
上  
し  
ゆ  
あ  
あ  
あ

一  
せ  
り  
伏  
え  
事

あ  
ゆ  
ゆ  
あ  
あ  
あ  
あ

一  
一  
一  
一  
一

一  
一  
一  
一  
一





こふきん 破

こほりのちかきいひん

行乃子 破

屋き大いん 破

たふぬあんちく大いん

まねちまのたきき 破

あきつきのあきき 破

あこあたきき 破

そくまがきき

みのたきき 破

あんぬ乃たきき

のりたきき 破

はくく 破

まらび 破

よーむかきき 破

武のかいしきの文

一と川かきの事

一雅ういしきの事

一 浅くいーまの事  
一 あとくーまの事  
一 初まの葉の事  
一 む免のそれの事  
一 むんちんぢくの事  
一 うまの葉の事  
一 知のむの事  
一 いせろの事  
一 一之の葉の事  
一 石竹の事  
一 初らけきの事  
一 一の葉の事  
一 せーかひの事  
一 さの葉の事  
一 くら川の葉の事  
一 かちの葉の事  
一 ろろの葉の事  
一 けの葉の事

一 しろの葉の事  
一 柳の葉の事  
一 核の葉の事  
一 ちやの葉の事  
一 ひまの葉の事  
一 なすひの葉の事  
一 葉の事  
一 いまの葉の事  
一 ろみちの葉の事  
一 志の葉の事  
一 さむの事  
一 松竹の事  
一 へ次の葉の事  
一 むまの葉の事  
一 桜の葉の事  
一 相の葉の事  
一 うまの葉の事  
一 海のもの

- 一 川のほとり
- 一 いはのこの事
- 一 山すけの系れ事
- 一 ふーのこの事
- 一 こねのこの事
- 一 木子の葉乃事
- 一 かほの系れり

延宝九  
初秋上旬

二十六

入部行列巻

国邑ニ入レラ云ナリ  
行列ハ分限家々  
ノ式礼ニ任ヘシ如是  
ノ法ヲ以テテ前ス  
ヘシ江府ノ出ト回郡  
ニ入トキ正クスヘシ  
鉄炮ハ廿挺ニ其全モ  
ニ行ニモタセ

玉業ハ廿八一荷マ  
仲商カワク

○ 物  
鉄炮

物頭ハ何モ騎馬セ  
鉄炮ハ足輕ニ一挺  
付袋ニ入カワセシ何モ  
左ノ肩ニカワク

弓モ鉄炮日チ一張  
左ノ肩ニカワク張リ也  
矢筈一荷仲ケレカ  
ツク

○ 物  
鉄炮  
○ 物  
矢箱  
○ 物  
矢箱  
○ 物  
長柄  
○ 物  
長柄

長柄何モ家ノ  
印ヲ付ヘシ世册  
其全モニ行

旗指の行列は備  
タルにテナリ旗  
サハズ旗はカ  
ノ有ラエラハ

旗竿十メシ草  
袋ニハ一本ヲ持  
テシ

旗竿棒指中間  
ハツクユタシ

平士騎馬廿五人ヲ  
一隊トス

太鼓ハワク  
レンヤクノ  
貞

由ロク  
馬ナリ

此馬是ヲ今  
自馬ト云行  
分限ニ忘ス

鎧長持今ハ異足  
概ナリ一為ニモ  
又原マウニモスル

タシスハ玉タスリ  
可入シ

此馬ハ甚ナリ  
二張立又一張  
モナリ

○旗指旗竿  
徳兵衛

旗箱騎馬ハ  
家亮

騎馬カ

曲深  
曾建三ハ付スモ  
タニニナリ

四  
網ニ入緒ヲ  
付テモ

曾建三ハ付スモ  
タニニナリ

持酒

持酒

持酒

此馬ハ  
張ラ一  
カ

トヒヤリ  
五百五  
十カ  
カ



。挟箱ニツ

其正妙三人國持三上

挟箱

。腰

。腰

。腰弓

。腰

。腰

。腰

。腰弓

。腰

。腰

。腰

ヤリハアトハモ持セル  
大島モハカテ道  
目方ナリハ先ハモ  
タセルナリ

大島毛

刀竹ハ左肩ニカ  
ツクヘシ

。腰

。腰

。腰

。腰

。腰

。腰

。腰

長刀モ一家ニモルヘシ

長刀

。腰

。腰

。腰

。腰

主人騎馬  
又加馬

馬ニテハカエラ  
馬ニ行列スル

。腰

。腰

。腰

。腰

ヒ中馬何モ追縄  
カリ多ク少ク限  
ニカス

宮馬

三冠

騎馬

近習

同榜

騎馬

人五

小倉家

騎馬十

小倉家

小倉家奉行ハ  
戦場三ハ重千役也  
今跡ヲ押ハ山頭役  
ナリ

此行列跡ノ夜光ナリ  
先ニ行列ス必知跡ヲ  
行列アルニ

元禄又壬申

季冬仲流

季冬十二月  
中、廿一日

廿七  
難名取之巻

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ

ねのさむらひ



右合冊奉辰先生  
自筆之書信也  
免傳字平一有  
由秘處也

松岡清助

文化十

二月

辰方  
六

八幡寺一頁

